

令和2年(2020年)
全国災害時気象概況

令和3年9月

気象庁

—— 目 次 ——

1 令和2年(2020年)の気象災害	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	16
資料1-2-2 令和2年(2020年)に発生した主な竜巻等の突風.....	27
資料1-2-3 令和2年(2020年)激甚災害指定状況一覧表.....	28
2 令和2年(2020年) 台風の概要	30
2-1 令和2年(2020年)に発生した台風.....	30
資料2-1-1 台風発生数一覧表.....	31
資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表	32
資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表	33
資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	34
資料2-1-5 令和2年(2020年)に発生した台風の一覧表	35
2-2 令和2年(2020年)に日本に影響した主な台風.....	37
資料2-2-1 令和2年(2020年)に日本に影響した台風の概要表	39
資料2-2-2 令和2年(2020年)に発生した台風の経路図	40
3 令和2年(2020年)の天気概況	44

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁大気海洋部において取りまとめたものである。

(平年値に関する補足)

気象庁では、2021年5月19日から1991-2020年の統計による新しい平年値を使用していますが、本資料では編集の都合から特に断らない限り1981-2010年の統計による従来の平年値を使用しています。このため、新しい平年値では「平年差0.0℃」や「平年並」であるところ、従来の平年値では「平年差+0.4℃」や「平年より高い」のようになっていることがあります。

新しい平年値と従来の平年値の違いの特徴等は、以下の報道発表資料を合わせて参照ください。

令和3年3月24日報道発表資料

「平年値の更新について～平年値(統計期間1991～2020年)を作成しました～」

https://www.jma.go.jp/jma/press/2103/24a/210324_heinenchi.html

(避難情報等の記述等に関する補足)

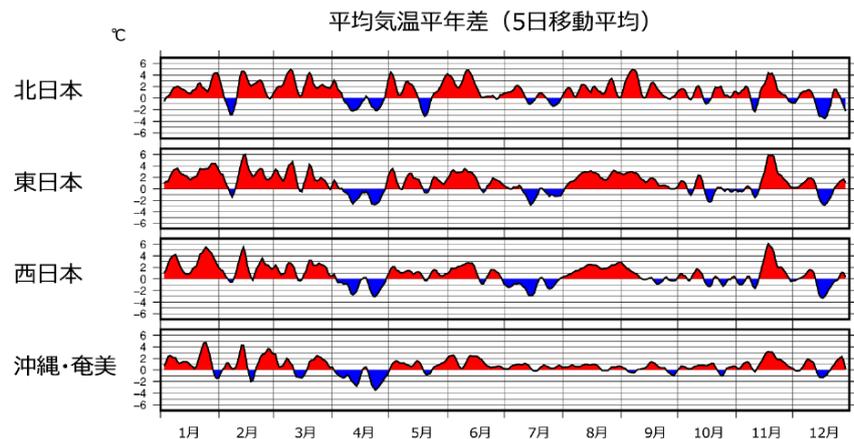
令和3年5月20日に「避難情報に関するガイドライン」が改正されましたが、本資料は現象が発生した時点における状況を取りまとめたものであり、改正前のガイドラインに準拠して記載しています。このため、例えば危険度分布の凡例が改正後のガイドラインに基づいたものとなっております。

1 令和2年(2020年)の気象災害

1-1 気象の特徴

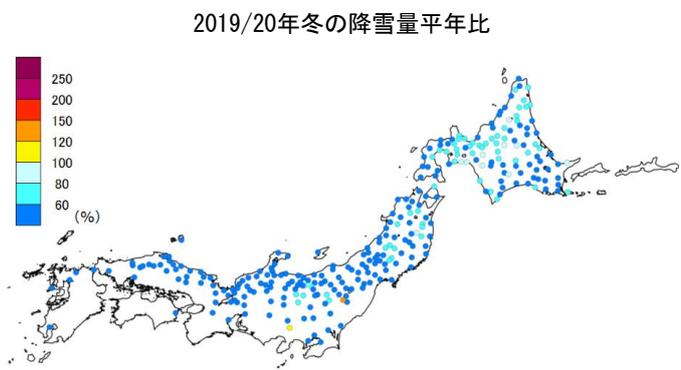
○ 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった

冬(2019年12月～2020年2月)は、冬型の気圧配置が続かず全国的に高温となった。春は、3月と5月に日本の南からの暖かい空気が入りやすく、北・東・西日本で高温となった。夏は、6月は日本の南海上の高気圧が西に張り出して日本付近に暖かい空気が入りやすく、8月は太平洋高気圧に覆われ、全国的に高温となった。秋は、9月前半は高気圧周辺を回る暖かい空気が入り残暑が厳しく、また11月後半は北日本以北を通過する低気圧に向かう暖かい空気が入り、西日本を除き高温となった。このように年間を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温(2020年1月～12月)は全国的にかなり高く、東日本で年平均差+1.2℃と、1946年の統計開始以来、最も高くなった。



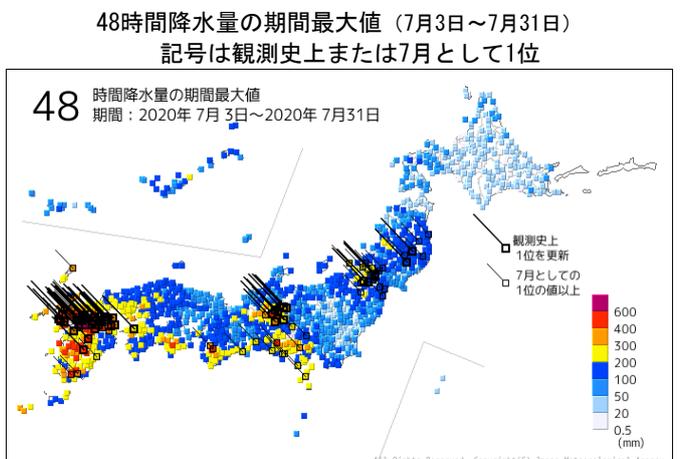
○ 全国的に暖冬で、東・西日本で記録的な高温、日本海側で記録的な少雪となった

冬型の気圧配置が続かず、全国的に寒気の流入が弱かったため、全国的に気温が高く、特に東・西日本では冬の平均気温の最も高い記録を更新した(統計開始1946/47年冬)。また、全国的に冬の降雪量はかなり少なく、北・東日本日本海側では冬の降雪量の最も少ない記録を更新した(統計開始1961/62年冬)。



○ 「令和2年7月豪雨」など7月は東・西日本で記録的な大雨と日照不足となった

活動の活発な梅雨前線の影響で、東・西日本を中心に各地で長期間にわたって大雨となり(「令和2年7月豪雨」)、1～72時間降水量の多い記録を、九州を中心に多数の地点で更新した。月降水量は東日本太平洋側、西日本で7月として最も多い記録を更新した。月間日照時間も東・西日本で7月として最も少ない記録を更新した(統計開始はともに1946年)。梅雨明けは沖縄地方を除く各地方で遅かった。



1-2 主な気象災害

ここでは、令和2年(2020年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種別、<>内に気圧配置等の気象状況を記す。主な気象災害の一覧を表 1.1 に示す。

なお、被害の具体的な数値は、以下の情報を参考に記載した。

- ・内閣府、総務省消防庁、国土交通省による被害状況のとりまとめ資料
- ・国や都道府県の防災機関等から被害状況を入手し、気象庁でとりまとめた資料
- ・気象庁が行った突風の被害状況等調査報告

表 1.1 主な気象災害の一覧表

災害番号	災害をもたらした現象の期日	地域	災害の種別	気象状況
(1)	5月9日～7月31日	全国	大雨	梅雨前線
(2)	8月7日～8月9日	島根県	大雨	前線、低気圧
(3)	8月31日～9月7日	沖縄・奄美 西日本 東日本	大雨、暴風、 高波、高潮	台風第9号 台風第10号
(4)	9月9日、9月10日	群馬県	大雨	前線
(5)	10月7日～10月11日	東日本	大雨、暴風、 高波	台風第14号
(6)	12月14日～12月21日	西日本、 東日本、 北日本	大雪	強い冬型の気圧配置

(1)5月9日～7月31日:全国(大雨)<梅雨前線>

令和2年5月9日から7月31日にかけて、活動の活発な梅雨前線や発達した低気圧の影響により、沖縄地方から東北地方にかけての各地で大雨となった。特に、7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらした7月3日から7月31日までの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。

令和2年7月豪雨においては、7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通過して東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州北部地方や九州南部では線状降水帯が形成され、4日から7日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。

その後も前線は本州付近に停滞し、西日本から東北地方の広い範囲で雨の降る日が多くなった。特に13日から14日にかけては中国地方を中心に、27日から28日にかけては東北地方を中心に大雨となった。これらの大雨により、球磨川や筑後川、飛騨川、江の川、最上川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、死者・行方不明者が86名、住家被害は約17,000棟に達するなど、人的被害や物的被害が多く発生した。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、7月25日に埼玉県三郷市でJEF1の竜巻が発生するなど、この期間に12県で29件の突風害が発生した。(被害の状況は、令和3年1月7日の内閣府とりまとめによる)

5月9日から5月14日まで

黄海の前線を伴った低気圧が、発達しながら日本海を通過して千島近海へ進み、低気圧から伸びる前線が南西諸島付近に停滞した。この影響で全国的に雨となり、沖縄地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月12日

沖縄県石垣市石垣島(イシガキジマ)	168.0
-------------------	-------

5月15日から5月17日まで

5月15日から17日は、前線が西日本から東日本に停滞した。この影響で西日本から東日本にかけて雨となり、九州南部では多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、九州北部地方の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月15日

鹿児島県枕崎市枕崎(マクラサキ)	122.5	長崎県平戸市平戸(ヒト)	121.0
------------------	-------	--------------	-------

5月16日

宮崎県えびの市加久藤(カクフ)	228.5	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	199.0
熊本県五木村五木(イツキ)	195.5	長崎県南島原市口之津(クチヅ)	154.0

5月17日

鹿児島県十島村小宝島(コダカラジマ)	173.0
--------------------	-------

5月18日から5月21日まで

5月18日から19日は、前線が南西諸島から東日本に停滞し、東シナ海の前線上で発生した低気圧が本州南岸を東に進んだ。20日から21日は、前線が日本の南に南下し、日本海の低気圧が東へ進んだ。この影響で全

国的に雨となり、九州南部では多いところで日降水量が 200 ミリを超えたほか、沖縄地方、九州北部地方、四国地方、東北地方の多いところで日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月18日

鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	215.5	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	177.0
熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	154.5	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	149.5
徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	135.0	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	119.5
沖縄県南城市糸数(イクサ)	113.5		

5月19日

宮城県石巻市雄勝(オガツ)	160.0	福島県相馬市相馬(ソウマ)	113.0
沖縄県竹富町大原(オオハラ)	102.5		

5月22日から5月25日まで

5月22日から25日にかけて南西諸島から日本の南にのびる梅雨前線が停滞したほか、24日から25日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した。この影響で、全国的に雨となり、沖縄地方では多いところで日降水量が 200 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月22日

沖縄県竹富町西表島(イオモテジマ)	207.5
-------------------	-------

5月23日

沖縄県南大東村南大東(ミナミダイウ)	144.0
--------------------	-------

5月26日から5月29日まで

5月26日から29日は、日本の南に梅雨前線が停滞したほか、日本海の低気圧が北日本を通過した。この影響で全国的に雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した地点なし]

5月30日から6月2日まで

5月30日から6月2日は、日本の南に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が本州南岸を進んだ。この影響で、全国的に雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した地点なし]

6月3日から6月9日まで

6月3日から9日は、南西諸島に梅雨前線が停滞し、沖縄地方や奄美地方では多いところで日降水量が 300 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月3日

鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	256.0
------------------	-------

6月4日

鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	390.0
------------------	-------

6月6日

鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	259.5	沖縄県与那国町所野(トコロ)	137.5
-------------------	-------	----------------	-------

6月7日
 沖縄県久米島町久米島(クメジマ) 166.5 鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ) 100.0

6月8日
 沖縄県石垣市石垣島(イシガキジマ) 362.0

6月9日
 沖縄県宮古島市城辺(クスクヘ) 194.0

6月10日から6月14日まで

6月10日から14日は、梅雨前線が西日本から北日本に停滞し、前線上の低気圧が北日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、西日本では多いところで日降水量 200 ミリを超えたほか、沖縄地方や東日本では多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月10日
 高知県室戸市佐喜浜(サキハマ) 174.0 沖縄県南大東村旧東(キウトウ) 121.0
 和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ) 105.5

6月11日
 鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン) 274.5 宮崎県えびの市えびの(エビノ) 258.0
 長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ) 250.0 和歌山県田辺市栗栖川(クリスカワ) 212.0
 高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ) 195.0 熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソオトヒメ) 184.5
 神奈川県箱根町箱根(ハコネ) 179.5 大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ) 175.5
 静岡県浜松市熊(クマ) 171.5 愛媛県西予市宇和(ウワ) 135.0
 長野県王滝村御嶽山(オンタケサン) 131.5 福岡県大牟田市大牟田(オオムタ) 131.0
 岐阜県郡上市八幡(ハチマン) 129.5 佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ) 119.0
 愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ) 114.0 奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 104.0
 栃木県鹿沼市鹿沼(カヌマ) 103.0

6月12日
 鹿児島県錦江町田代(タシロ) 138.0 宮崎県えびの市えびの(エビノ) 131.0

6月13日
 島根県大田市福光(フクミツ) 197.5 鳥取県日南町茶屋(チャヤ) 132.5
 広島県庄原市高野(タカノ) 119.5 長崎県対馬市厳原(イツハラ) 116.5
 岡山県真庭市上長田(カミナカタ) 114.5 熊本県山都町山都(ヤマト) 108.5
 大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ) 106.5

6月14日
 石川県白山市白山白峰(ハクサンシラミネ) 144.5 長野県王滝村御嶽山(オンタケサン) 144.0
 鳥取県大山町大山(ダイセン) 126.5 福井県坂井市春江(ハルエ) 125.5
 岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ) 118.0 富山県上市町上市(カミイチ) 115.0

6月15日から6月19日まで

6月15日から19日は、西日本から東日本に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が西日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、九州北部地方では多いところで日降水量 200 ミリを超えたほか、西日本を中心に多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月15日

鹿児島県霧島市牧之原(マキノハラ) 161.0

6月17日

鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ) 123.5

6月18日

山口県山口市徳佐(トクサ) 162.0 島根県吉賀町吉賀(ヨシカ) 156.5

広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ) 141.5 長崎県対馬市厳原(イツハラ) 122.0

福岡県行橋市行橋(ユクハシ) 118.5 愛媛県今治市玉川(タマガワ) 101.5

6月19日

長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ) 217.5 熊本県南阿蘇村南阿蘇(ミナミアソ) 193.0

愛媛県内子町獅子越峠(シシゴエトウゲ) 127.0 東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 112.0

大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ) 112.0 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 100.5

6月20日から6月24日まで

6月20日から24日は、南西諸島に梅雨前線が停滞し、東シナ海の前線上の低気圧が東へ進んだ。この影響で沖縄・奄美や東日本の太平洋側で雨となり、沖縄・奄美の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月21日

鹿児島県奄美市名瀬(ナセ) 128.5

6月22日

沖縄県本部町本部(モトブ) 173.5 鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ) 117.5

6月25日から7月1日まで

6月25日から7月1日は、梅雨前線が西日本から北日本に停滞したほか、前線上の低気圧が北日本に接近した。この影響で全国的に雨となり、九州南部や四国地方では多いところで日降水量300ミリを超え、西日本や東日本の多いところで日降水量200ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月25日

長崎県佐世保市佐世保(サセホ) 274.0 佐賀県伊万里市伊万里(イマリ) 192.0

福岡県福岡市早良脇山(サワラキヤマ) 124.0 東京都利島村利島(トシマ) 123.0

6月26日

石川県金沢市医王山(イオウセン) 102.5

6月27日

宮崎県えびの市えびの(エビノ) 331.5 鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン) 249.0

熊本県多良木町多良木(タラクキ) 210.0 福岡県久留米市久留米(クルメ) 193.5

佐賀県伊万里市伊万里(イマリ) 187.5 長崎県佐世保市佐世保(サセホ) 154.0

大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ) 149.5 沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ) 125.0

6月28日

東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 186.5 鹿児島県錦江町田代(タシロ) 136.0

宮崎県日南市深瀬(フカセ) 113.0 埼玉県鳩山町鳩山(ハトヤマ) 106.0

静岡県三島市三島(シマ)	104.5		
6月30日			
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	377.0	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	266.0
静岡県静岡市井川(イカリ)	242.5	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	232.5
宮崎県えびの市えびの(エビノ)	225.0	鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	212.0
長野県大鹿村大鹿(オオシカ)	180.5	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	165.0
熊本県五木村五木(イツキ)	155.0	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	152.0
山梨県南部町南部(ナンブ)	140.0	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	134.0
岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	128.0	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	111.0
三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	101.5	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	100.5

7月1日

神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	264.5	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	245.5
鹿児島県奄美市名瀬(ナセ)	147.5	岐阜県高山市船山(フナヤマ)	144.5

7月2日から7月4日まで

7月2日から4日は、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、前線上の低気圧が東に進んだ。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方や四国地方では多いところで日降水量300ミリを超えたほか、西日本や東日本の多いところで日降水量200ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月3日

鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	283.0	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	277.5
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	149.0	熊本県水俣市水俣(ミナマタ)	145.5

7月4日

熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	386.5	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	337.0
宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	293.0	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	231.5
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	224.5	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	214.5
鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	176.5	山梨県南部町南部(ナンブ)	154.5
徳島県美波町日和佐(ヒロサ)	152.0	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	146.0
愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	144.5	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	124.0
富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	113.5	岐阜県下呂市宮地(ミヤジ)	112.0
愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	109.5	東京都大島町大島北ノ山(オオシマキタノヤマ)	108.5

7月5日から7月8日まで

7月5日から8日は、梅雨前線が西日本から東北地方に停滞した。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方では多いところで日降水量400ミリを超えたほか、四国地方の多いところで日降水量300ミリを超え、西日本や東日本の多いところで日降水量200ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月5日

鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	202.0	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	165.0
-------------------	-------	-----------------	-------

7月6日

福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	388.5	鹿児島県鹿屋市鹿屋(カノヤ)	385.5
長崎県長崎市長浦岳(ナガウラダケ)	376.5	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	351.5

高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	345.0	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	315.5
宮崎県日南市深瀬(フカセ)	297.0	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	293.0
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	285.0	佐賀県佐賀市川副(カワソエ)	262.5
静岡県浜松市佐久間(サクマ)	238.0	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	216.0
岐阜県本巣市樽見(タルミ)	189.5	広島県広島市広島(ヒロシマ)	187.5
山口県周南市和田(ワタ)	181.0	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	176.5
愛媛県西予市宇和(ウワ)	176.5	山梨県南部町南部(ナンブ)	151.5
三重県御浜町御浜(ミハマ)	131.0	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	129.5
徳島県那賀町木頭(キトウ)	129.5		

7月7日

大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	437.5	熊本県南阿蘇村南阿蘇(ミナミアソ)	357.5
福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	273.0	岐阜県下呂市萩原(ハキワラ)	265.5
長崎県松浦市松浦(マツウラ)	236.5	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	233.5
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	206.5	山口県周防大島町安下庄(アゲノショウ)	198.5
和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	184.0	愛媛県東温市上林(カミハヤシ)	161.0
静岡県御殿場市御殿場(ゴテンバ)	148.0	山梨県南部町南部(ナンブ)	141.5
宮崎県えびの市加久藤(カクウ)	127.0	石川県宝達志水町宝達志水(ホウダツシズ)	120.0
広島県呉市呉市蒲刈(クレシカマガリ)	116.5	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	109.0

7月8日

鹿児島県十島村諏訪之瀬島(スワノセジマ)	365.0	岐阜県下呂市萩原(ハキワラ)	222.5
宮崎県串間市串間(クシマ)	157.0	和歌山県有田川町清水(シミス)	136.0
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	129.5	静岡県静岡市井川(イカワ)	119.0
長野県阿智村浪合(ナミアイ)	116.0	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	114.5
愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	108.5	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	106.0

7月9日から7月11日まで

7月9日から11日は、梅雨前線が西日本から北日本に停滞した。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方では多いところで日降水量 300 ミリを超えたほか、四国地方や甲信地方の多いところで日降水量 200 ミリを超え、西日本や東日本の広い範囲で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月9日

鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	169.0	長崎県島原市島原(シマバラ)	168.0
静岡県浜松市春野(ハルノ)	145.0	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	133.5
佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	132.0	熊本県玉名市岱明(タイメイ)	118.5
奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	113.0	愛知県豊橋市豊橋(トヨハシ)	101.5
福岡県北九州市空港北町(クウコウキタマチ)	100.0		

7月10日

長崎県対馬市厳原(イツハラ)	253.5	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	247.5
徳島県三好市京上(キョウジョウ)	198.0	福岡県八女市黒木(クロキ)	180.5
大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	176.5	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	170.5
佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	163.0	岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	155.0
山口県岩国市羅漢山(ラカンサン)	130.0	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	112.0

広島県広島市三入(ミリ)	107.5		
7月11日			
熊本県山都町山都(ヤマト)	356.5	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	209.0
宮崎県椎葉村椎葉(シイハ)	194.5	岐阜県下呂市萩原(ハキワラ)	162.5
鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	130.5	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	127.0
神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	125.0	静岡県御殿場市御殿場(ゴテンハ)	116.5
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	112.0		

7月12日から7月16日まで

7月12日から14日は、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、前線上の低気圧が日本海を東へ進んだ。この影響で全国的に雨となり、九州北部地方では多いところで日降水量200ミリを超えたほか、西日本や東日本の広い範囲で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月12日			
岩手県遠野市遠野(トオノ)	100.5		
7月13日			
長崎県対馬市厳原(イツハラ)	209.5	島根県海士町海士(アマ)	159.5
広島県北広島町都志見(ツシミ)	125.5	鳥取県境港市境(サカイ)	122.0
山口県岩国市羅漢山(ラカンサン)	115.0		
7月14日			
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	169.5	熊本県山都町山都(ヤマト)	156.0
岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	148.0	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	147.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	122.5	静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ)	116.0
大阪府能勢町能勢(ノセ)	114.5	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	113.5
大分県中津市耶馬溪(ヤバケイ)	112.0	東京都利島村利島(トシマ)	105.0
広島県東広島市志和(シワ)	104.5	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	101.0

7月15日から7月22日まで

7月17日から19日にかけて、本州南岸に梅雨前線が停滞した。その後、21日にかけて低気圧が日本海に進み、低気圧からのびる前線が21日頃西日本から北日本を通過した。この影響でほぼ全国的に雨となり、東日本の太平洋側を中心に多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月15日			
長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザワオンセン)	119.0		
7月16日			
鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ)	148.5		
7月17日			
東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	150.5	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	126.5
7月18日			
静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ)	193.5	東京都大島町大島(オオシマ)	182.5
千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	124.5		

7月19日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 145.0

7月21日

福島県猪苗代町猪苗代(イワシロ) 100.0

7月23日から7月24日まで

7月23日から24日は、梅雨前線が西日本から東日本に停滞した。この影響で西日本や東日本で雨となり、九州南部や九州北部地方では多いところで日降水量200ミリを超えたほか、西日本の多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月23日

長崎県対馬市厳原(イツハラ) 202.5

7月24日

宮崎県えびの市えびの(エビノ)	228.0	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	192.5
鹿児島県霧島市溝辺(ミゾベ)	190.5	高知県高知市高知(コウチ)	176.0
熊本県熊本市熊本(クマモト)	167.5	山口県岩国市羅漢山(ラカンサン)	144.5
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	141.5	和歌山県有田川町清水(シミズ)	135.0
広島県広島市佐伯湯来(サエキユキ)	119.5	福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	108.0
佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	107.0		

7月25日から7月28日まで

7月25日から28日は、梅雨前線が西日本から北日本に停滞し、日本海の低気圧が北日本を通過した。この影響ではほぼ全国的に雨となり、25日から26日は東海地方では多いところで日降水量300ミリを超えたほか、九州北部地方の多いところで日降水量200ミリを超え、西日本や東日本の広い範囲で日降水量100ミリを超える大雨となった。また、27日から28日は東北地方の多いところで日降水量200ミリを超え、西日本や東日本の広い範囲で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月25日

静岡県浜松市佐久間(サクマ)	176.0	高知県香美市大栃(オオトチ)	174.0
長野県阿南町阿南(アナン)	171.0	岐阜県下呂市萩原(ハキワラ)	164.5
徳島県那賀町木頭(キトウ)	160.0	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	158.0
三重県大紀町藤坂峠(フジサカウゲ)	153.5	愛知県新城市作手(ツクテ)	144.5
兵庫県洲本市洲本(スモト)	141.0	山梨県富士川町富士川(フジカワ)	132.0
和歌山県有田川町清水(シミズ)	122.5	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	100.0

7月26日

静岡県富士市富士(フジ)	307.0	福岡県福岡市小呂島(オロノシマ)	242.5
長崎県壱岐市石田(イシダ)	177.0	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	138.5
神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	135.0	和歌山県田辺市本宮(ホングウ)	115.0
奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	114.5	岐阜県下呂市萩原(ハキワラ)	103.5
鹿児島県中種子町中種子(ナカタネ)	101.0		

7月27日

佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	193.5	長崎県対馬市鰐浦(ワニウラ)	167.0
熊本県天草市牛深(ウシブカ)	155.5	静岡県菊川市菊川牧之原(キクガワマキノハラ)	155.0
高知県香美市繁藤(シゲトウ)	147.0	福岡県柳川市柳川(ヤナガワ)	118.0
秋田県仙北市田沢湖(タザワコ)	117.5	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	116.5
岩手県宮古市区界(クザカイ)	105.0		
7月28日			
山形県西川町大井沢(オオイサワ)	215.0	新潟県粟島浦村粟島(アワシマ)	179.5
秋田県大仙市大曲(オオマガリ)	157.0	宮城県白石市白石(シロイシ)	146.0
福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	143.5	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	129.5
長崎県対馬市鰐浦(ワニウラ)	100.0		

7月29日から7月31日まで

7月29日から30日は、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、31日は、日本海の低気圧が東へ進んだ。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方や北陸地方、東北地方では多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月29日

長崎県対馬市鰐浦(ワニウラ) 107.0

7月31日

新潟県阿賀町津川(ツガワ) 153.0 福島県金山町金山(カネヤマ) 131.0

(2)8月7日～8月9日:島根県(大雨)＜前線、低気圧＞

8月7日から9日にかけて、低気圧や低気圧からのびる前線の影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側や北海道地方で雨となり、中国地方、北陸地方、北海道地方では一部で大雨となった。

この大雨により、島根県で約50棟の住家被害が発生した。(被害の状況は令和3年2月26日の消防庁とりまとめによる)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月7日

島根県隠岐の島町西郷(サイコウ) 281.0

(3)8月31～9月7日:沖縄・奄美、西日本、東日本(大雨、暴風、高波)＜台風第9号、台風第10号＞

台風第9号は、8月31日夜遅くから9月1日未明にかけて大型で非常に強い勢力となり沖縄地方に接近した。その後、2日夜遅くから3日未明にかけて大型で強い勢力で九州北部地方に接近し、その後、朝鮮半島に進んだ。この台風によって、人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本で住家被害が生じた。(被害の状況は令和3年2月26日の消防庁とりまとめによる)

台風第10号は、日本の南を北西に進み、9月4日から5日にかけて猛烈な勢力で沖縄地方に接近し、5日から7日にかけて非常に強い勢力を保って奄美地方や西日本に接近した後、朝鮮半島に上陸し、8日3時に温帯低気圧に変わった。この台風によって死者3名、行方不明者3名の人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本の広い範囲で1,000棟を超える住家被害が生じた。また、暴風による飛来物や倒木により高圧線断線等が

発生し、停電戸数は最大時で 500,000 戸を超えた。(被害の状況は令和 3 年 2 月 26 日の消防庁とりまとめ等による)

8 月 31 日から 9 月 3 日まで

台風第 9 号の接近に伴い、沖縄県久米島町で 40.7 メートルを観測するなど沖縄地方や九州北部地方の複数の観測点で最大風速 30 メートル以上の猛烈な風を観測した。

雨については、台風により暖かく湿った空気が流れ込み、発達した雨雲がかかったため、九州南部、四国地方、東海地方の複数の観測点で 1 時間 50 ミリ以上の非常に激しい雨を観測した。

高潮については、台風の接近が大潮の時期と重なったことから、島根県浜田で 122 センチメートル、兵庫県津居山で 92 センチメートルを観測するなど、警報基準を超えるような潮位を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8 月 31 日

沖縄県宮古島市城辺(グスクヘ) 111.0

9 月 1 日

沖縄県粟国村粟国(アグニ) 202.5 福島県相馬市相馬(ソウマ) 115.0
三重県大紀町藤坂峠(フジサカウゲ) 101.5

9 月 2 日

宮崎県諸塚村諸塚(モツカ) 167.5 熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 163.5
徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ) 154.5 高知県いの町本川(ホンカワ) 134.5
三重県大台町宮川(ミヤカワ) 114.5 和歌山県古座川町西川(ニシカワ) 106.0

9 月 3 日

静岡県浜松市熊(クマ) 118.5 岐阜県関市関市板取(セキシイトリ) 116.0

[日最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

8 月 31 日

沖縄県うるま市宮城島(ミヤギシマ) 30.6

9 月 1 日

沖縄県久米島町北原(キタハラ) 40.7 鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ) 20.6

9 月 2 日

長崎県対馬市美津島(ミツシマ) 30.1 福岡県福岡市博多(ハカタ) 23.2
愛媛県伊方町瀬戸(セト) 21.1 佐賀県佐賀市佐賀(サガ) 21.0
鹿児島県天城町天城(アマギ) 20.4

9 月 3 日

長崎県壱岐市石田(イシダ) 29.5 福岡県福岡市博多(ハカタ) 23.4
愛媛県伊方町瀬戸(セト) 23.1 佐賀県佐賀市川副(カワソエ) 21.7

9 月 4 日から 9 月 7 日まで

台風第 10 号の接近に伴い、沖縄・奄美から東日本にかけての広い範囲で暴風、大雨、高波、高潮となった。風については、長崎県野母崎で 7 日に最大風速 44.2 メートル、最大瞬間風速 59.4 メートルとなったほか、南西諸島や九州を中心に猛烈な風または非常に強い風を観測し、観測史上 1 位の値を超えたところがあるなど、記録的な暴風となった。

雨については、宮崎県神門で 4 日から 7 日までの総降水量が 599.0 ミリとなり、宮崎県の 4 地点で 24 時間降水量が 400 ミリを超えたほか、台風の中心から離れた東日本の太平洋側など広い範囲で 24 時間降水量が

200 ミリを超える大雨となった。

波については、宮崎県日向沖で 11.4 メートル、鹿児島県屋久島で 10.4 メートルの高波が観測されるなど、南西諸島や九州、四国地方で猛烈なしけとなった。

高潮については、鹿児島県奄美で潮位が 216 センチとなり、警報基準(190 センチ)を超える値が観測された。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9 月 4 日

山形県酒田市酒田(サカタ)	159.5	岡山県真庭市下皆部(シモアサエ)	105.0
---------------	-------	------------------	-------

9 月 5 日

埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	155.0	沖縄県南大東村南大東(ミナミダイウ)	141.5
長崎県五島市福江(フクエ)	121.5	和歌山県紀の川市葛城山(カツラギサン)	108.5
神奈川県相模原市相模湖(サガミコ)	107.5		

9 月 6 日

宮崎県美郷町神門(ミカト)	490.0	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	308.5
鹿児島県肝付町肝付前田(キモツキマエタ)	236.0	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	229.0
大分県竹田市竹田(タケタ)	167.5	東京都檜原村小沢(オザワ)	160.0
神奈川県相模原市相模湖(サガミコ)	153.0	愛媛県西条市成就社(ジョウジユシヤ)	152.5
徳島県那賀町木頭(キノウ)	143.5	山梨県上野原市上野原(ウエノハラ)	131.5
奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ)	112.5	沖縄県東村東(ヒガシ)	108.0
和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	103.5	三重県四日市市四日市(ヨッカイチ)	101.5

9 月 7 日

静岡県静岡市井川(イカワ)	208.0	徳島県那賀町木頭(キノウ)	161.5
高知県いの町本川(ホンカワ)	158.0	長崎県五島市福江(フクエ)	145.5
山梨県甲府市古閑(フルセキ)	143.5	愛媛県西条市成就社(ジョウジユシヤ)	142.5
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	134.0	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	110.5
神奈川県小田原市小田原(オダワラ)	108.0	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	103.0

[日最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

9 月 5 日

沖縄県南大東村南大東(ミナミダイウ)	31.7
--------------------	------

9 月 6 日

沖縄県南大東村南大東(ミナミダイウ)	35.0	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	30.7
熊本県天草市牛深(ウシブカ)	24.2	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	24.2
高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	22.0	福岡県北九州市空港北町(クウコウキタマチ)	21.4
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	21.4	山口県宇部市宇部(ウヘ)	20.4

9 月 7 日

長崎県長崎市野母崎(ノモサキ)	44.2	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	29.3
福岡県福岡市博多(ハカタ)	27.3	山口県宇部市宇部(ウヘ)	25.1
佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	25.1	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	25.0
大分県佐伯市蒲江(カマエ)	24.8	熊本県天草市牛深(ウシブカ)	24.7
宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	24.4	鹿児島県鹿児島市鹿児島(カゴシマ)	23.4
高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	22.9	兵庫県姫路市家島(イエシマ)	21.1

(4)9月9日、9月10日:群馬県(大雨)＜前線＞

9月9日から10日は、沖縄・奄美から北日本に停滞した前線の影響で全国的に雨となり、奄美地方や関東地方では一部で大雨となった。

この大雨により、群馬県で土砂災害が発生するとともに、住家被害が生じたほか、農地や農業施設の被害が発生した。(被害の状況は気象庁の調べによる)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9月9日

群馬県みなかみ町みなかみ(ミナカミ) 148.0

(5)10月7日～10月11日:東日本(大雨、暴風、高波)＜台風第14号＞

10月7日から10月11日にかけて、伊豆諸島付近には前線が停滞した。また、10月5日09時に日本の南で発生した台風第14号は、発達しながら北西に進み、7日15時に南大東島の東で強い台風となった。台風は強い勢力を維持しながら8日には進路を北に変え、9日夜に四国の南に達し、台風は9日21時には強い勢力ではなくなった。その後、進路を東よりに変え、比較的ゆっくりした速度で11日朝にかけて東海道沖から伊豆諸島付近を東に進んだ。この台風や前線等の影響により、東日本の太平洋側を中心に大雨や暴風、高波となり、特に東京都伊豆諸島においては記録的な大雨となった。

この大雨等の影響で、土砂災害が発生するとともに、人的被害や住家被害が発生した。(被害の状況は令和2年11月13日の消防庁とりまとめによる)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

10月7日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 129.5

10月8日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 283.0 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 109.0
奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ) 104.5

10月9日

和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ) 254.0 三重県尾鷲市尾鷲(オワセ) 211.5
徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ) 157.5 東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 154.0
静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 132.0 高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ) 121.5

10月10日

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ) 396.0 和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ) 225.5
静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 215.5 三重県尾鷲市尾鷲(オワセ) 199.5
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 109.0 神奈川県箱根町箱根(ハコネ) 108.0
長野県阿智村浪合(ナミアイ) 107.0 山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ) 106.0

10月11日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 121.5

[日最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

10月8日

高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ) 23.1 鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ) 21.7

愛媛県大洲市長浜(ナガハマ)	20.4		
10月9日			
高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	20.9		
10月10日			
東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	23.6	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	20.7

(6)12月14日～12月21日：西日本、東日本、北日本(大雪)＜強い冬型の気圧配置＞

12月14日から21日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、上空には強い寒気が流れ込み続けた。

この影響で、北日本から西日本の日本海側を中心に断続的に雪が降り、14日から21日にかけての期間降雪量が、群馬県藤原で291センチとなったほか、新潟県津南で278センチ、青森県酸ヶ湯で243センチとなるなど、関東地方や北陸地方、東北地方の山地を中心に大雪となった。特に、群馬県藤原では、48・72時間降雪量の期間最大値が歴代全国1位(アメダス観測値による統計)を更新する記録的な大雪となった。

今回の大雪により、新潟県や群馬県の関越自動車道で多数の車両の立ち往生が発生したほか、北日本から西日本にかけて道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害、除雪作業中の事故が発生した。(令和2年12月21日の内閣府とりまとめによる)

[日降水量50センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

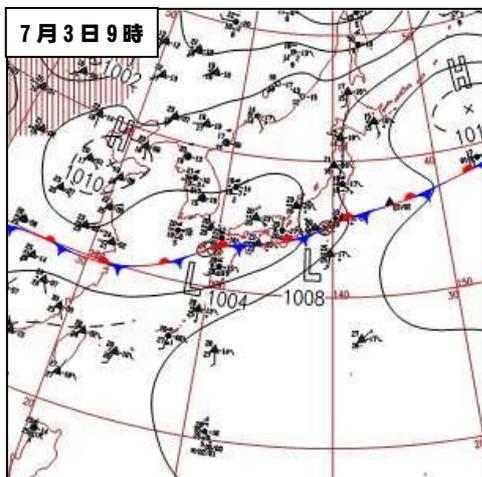
12月14日			
山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	62	岩手県西和賀町湯田(ユタ)	54
12月15日			
群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	117	新潟県湯沢町湯沢(ユザワ)	92
福島県只見町只見(タダミ)	71	岩手県西和賀町湯田(ユタ)	62
山形県米沢市米沢(ヨネザワ)	51		
12月16日			
群馬県みなかみ町みなかみ(ミナカミ)	80	岐阜県白川村白川(シラカワ)	71
富山県富山市猪谷(イノタニ)	66	新潟県津南町津南(ツナン)	61
長野県飯山市飯山(イイヤマ)	55	福島県檜枝岐村桧枝岐(ヒノエマタ)	54
滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	53		
12月19日			
青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	63	新潟県津南町津南(ツナン)	63
長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザワオンセン)	57		
12月20日			
秋田県湯沢市湯沢(ユザワ)	60		

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料

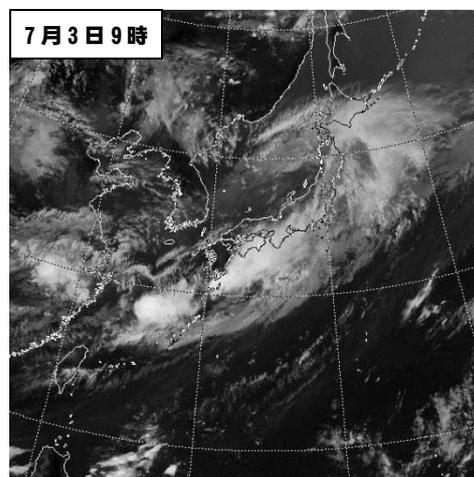
○ 災害番号 (1)

梅雨前線による熊本県・鹿児島県を中心とする大雨 (7月3日~7月4日)

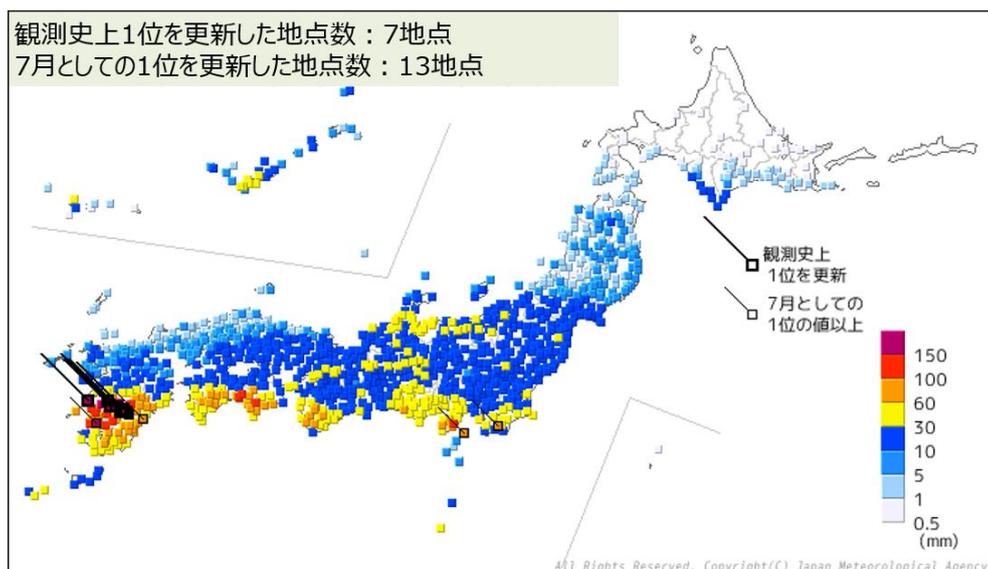
地上天気図



気象衛星画像 (赤外)



期間最大3時間降水量分布図 (7月3日~7月4日)



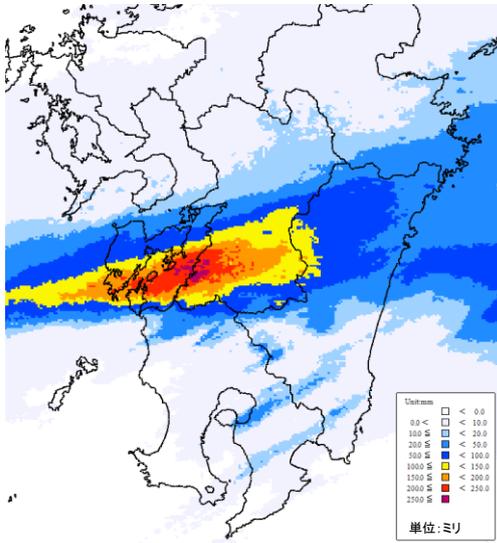
期間総降水量表 (上位10地点) (7月3日~7月4日)

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	熊本県	天草市	牛深(ウシブカ)	205.5	2020/7/4	04:10
2	熊本県	葦北郡芦北町	田浦(タノウラ)	190.5	2020/7/4	06:00
3	熊本県	球磨郡山江村	山江(ヤマエ)	186.0	2020/7/4	05:00
4	熊本県	球磨郡五木村	五木(イツキ)	181.5	2020/7/4	06:20
5	鹿児島県	薩摩川内市	八重山(ヤエヤマ)	176.5	2020/7/3	22:50
6	熊本県	球磨郡湯前町	湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	165.5	2020/7/4	08:20
7	熊本県	球磨郡球磨村	一勝地(イツショウチ)	158.5	2020/7/4	05:00
8	熊本県	水俣市	水俣(ミナマタ)	157.0	2020/7/4	04:30
9	熊本県	球磨郡あさぎり町	上(ウエ)	150.0	2020/7/4	08:40
10	熊本県	球磨郡多良木町	多良木(タラギ)	139.5	2020/7/4	03:50

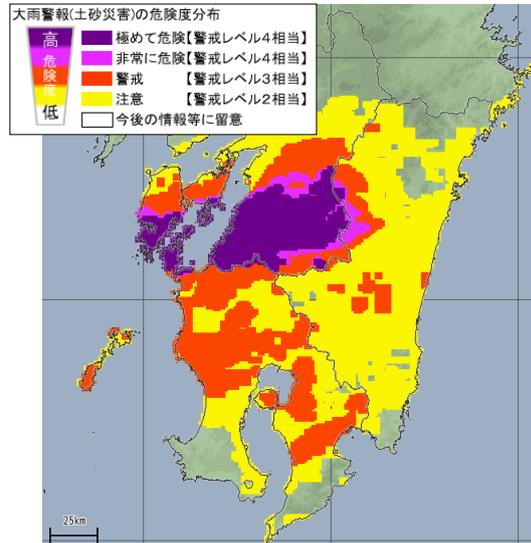
大雨特別警報を発表した頃の危険度分布の状況

7月4日5時の危険度分布（4時50分に熊本県、鹿児島県に大雨特別警報を発表）

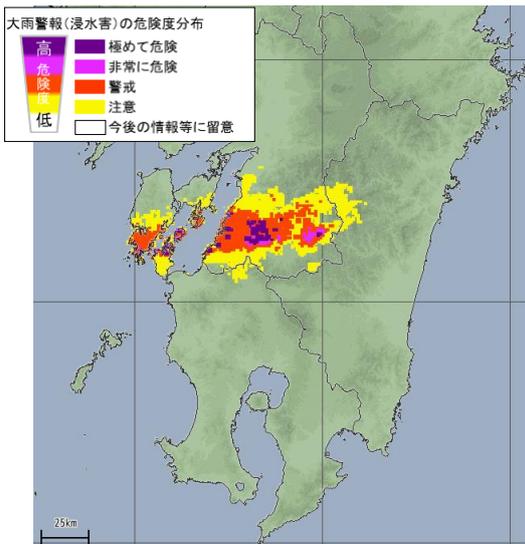
3時間降水量(解析雨量)



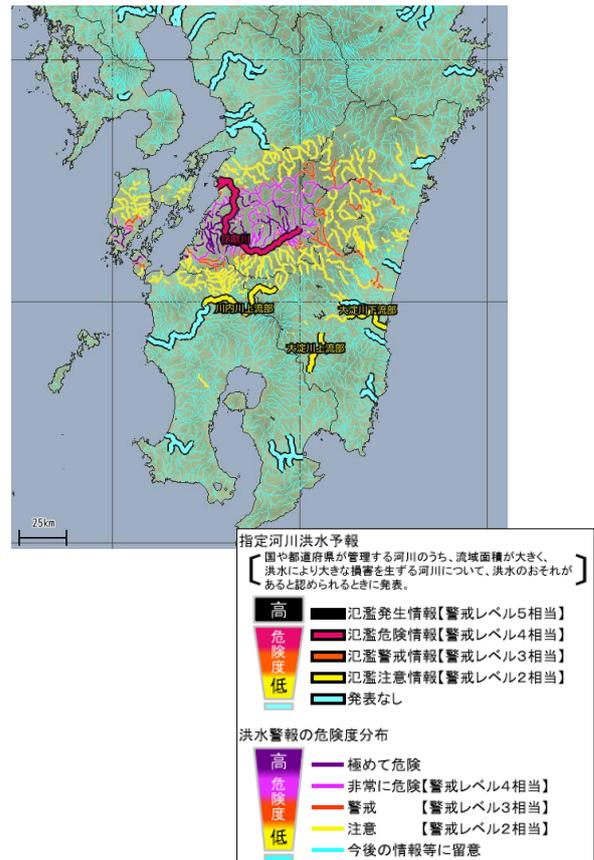
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布

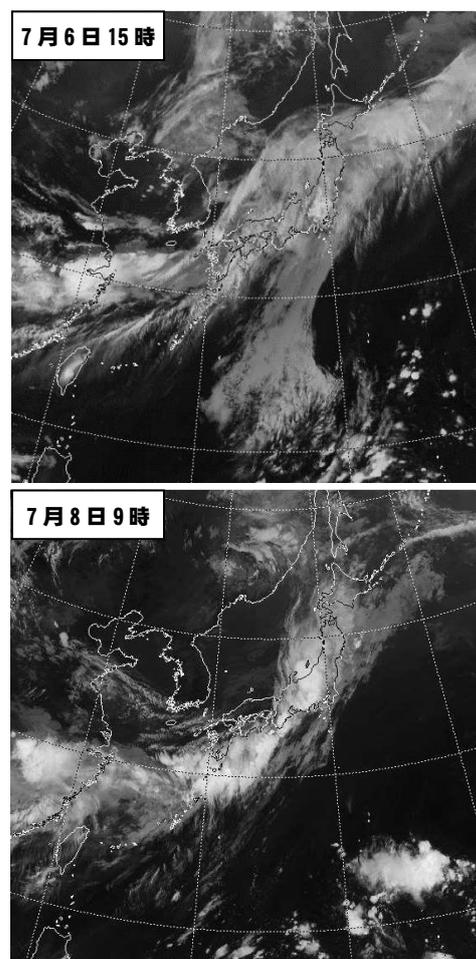
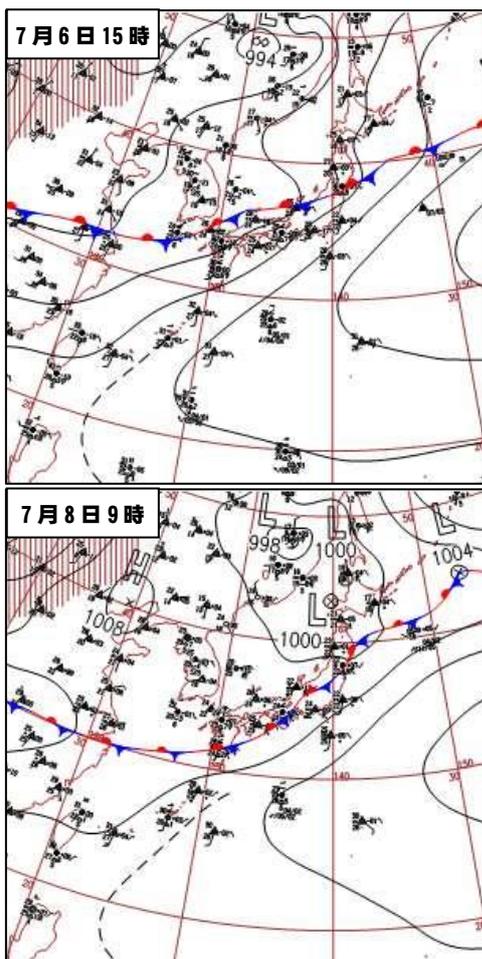


洪水警報の危険度分布

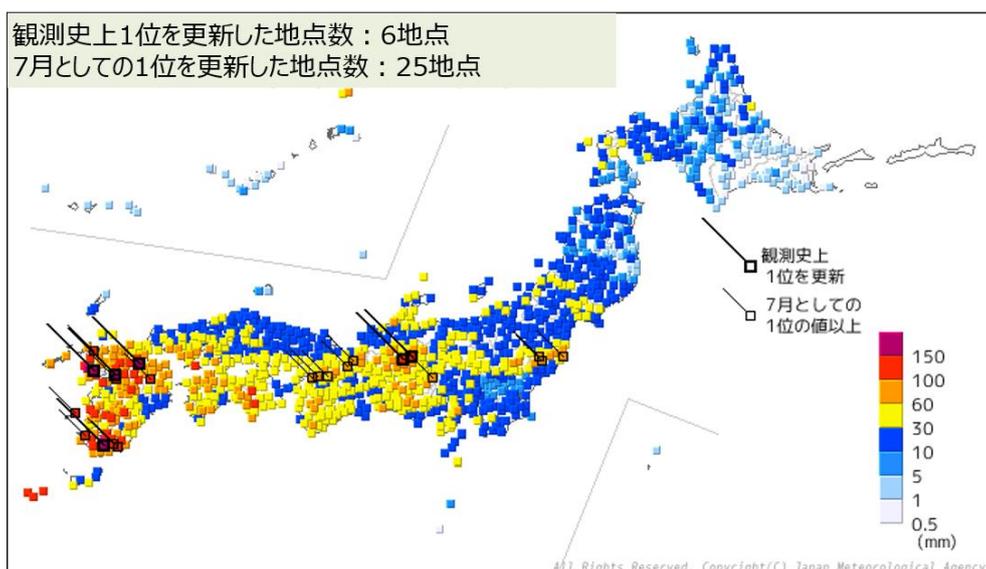


※大雨警報・洪水警報の危険度分布とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

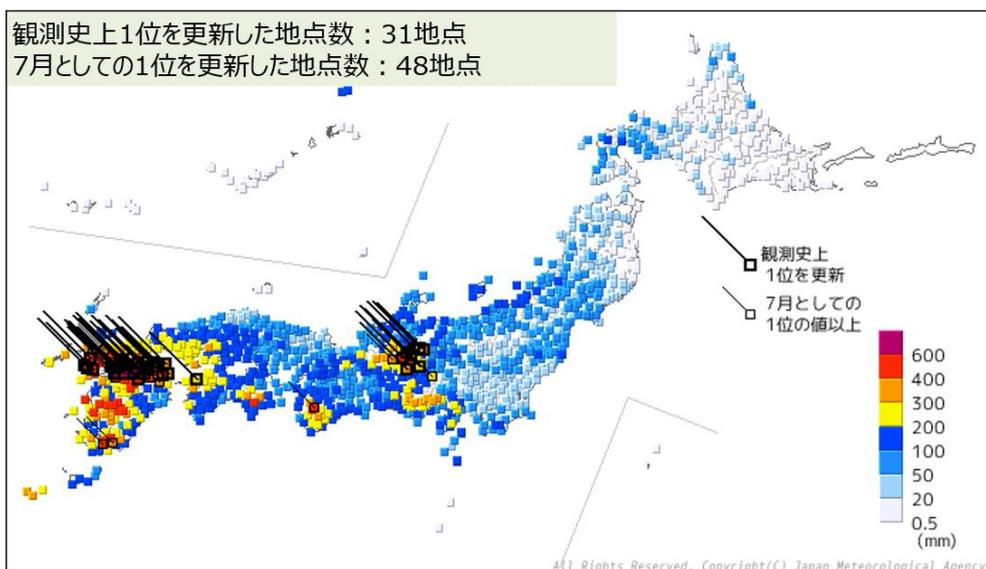
梅雨前線による九州北部地方や東海・甲信地方を中心とする大雨（7月6日～7月8日）
 地上天気図 気象衛星画像（赤外）



期間最大3時間降水量分布図（7月6日～7月8日）



期間最大 48 時間降水量分布図（7月6日～7月8日）



期間最大 3 時間降水量表（上位 10 地点）（7月6日～7月8日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	長崎県	大村市	大村(オオムラ)	193.0	2020/7/6	16:30
2	福岡県	大牟田市	大牟田(オオムタ)	188.5	2020/7/6	17:20
3	長崎県	長崎市	長浦岳(ナガウラダケ)	178.5	2020/7/6	16:00
4	鹿児島県	鹿屋市	鹿屋(カノヤ)	178.0	2020/7/6	08:40
5	鹿児島県	鹿屋市	吉ヶ別府(ヨシガベツ)	172.5	2020/7/6	08:30
6	福岡県	田川郡添田町	英彦山(ヒコサン)	153.0	2020/7/6	14:50
7	鹿児島県	志布志市	志布志(シブシ)	149.0	2020/7/6	11:20
8	熊本県	阿蘇郡南阿蘇村	南阿蘇(ミナミアソ)	144.5	2020/7/7	10:10
9	鹿児島県	曾於市	大隅(オオスミ)	138.0	2020/7/6	05:40
10	大分県	日田市	椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	136.0	2020/7/7	22:50

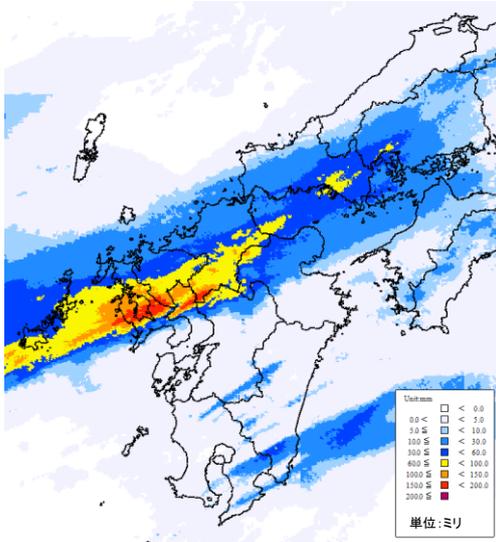
期間最大 48 時間降水量表（上位 10 地点）（7月6日～7月8日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	大分県	日田市	椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	792.5	2020/7/7	23:00
2	福岡県	大牟田市	大牟田(オオムタ)	666.5	2020/7/7	22:20
3	熊本県	山鹿市	鹿北(カホク)	664.5	2020/7/7	22:30
4	長崎県	長崎市	長浦岳(ナガウラダケ)	578.0	2020/7/7	21:00
5	岐阜県	下呂市	萩原(ハギワラ)	557.5	2020/7/8	09:20
6	福岡県	久留米市	耳納山(ミノウサン)	541.0	2020/7/8	02:40
7	熊本県	阿蘇郡南小国町	南小国(ミナミオグニ)	539.0	2020/7/8	00:40
8	福岡県	田川郡添田町	英彦山(ヒコサン)	533.0	2020/7/8	02:40
9	鹿児島県	鹿屋市	鹿屋(カノヤ)	526.0	2020/7/7	07:30
10	長野県	木曾郡王滝村	御嶽山(オウタケサン)	513.0	2020/7/8	07:40
10	熊本県	阿蘇郡南阿蘇村	南阿蘇(ミナミアソ)	513.0	2020/7/8	00:40

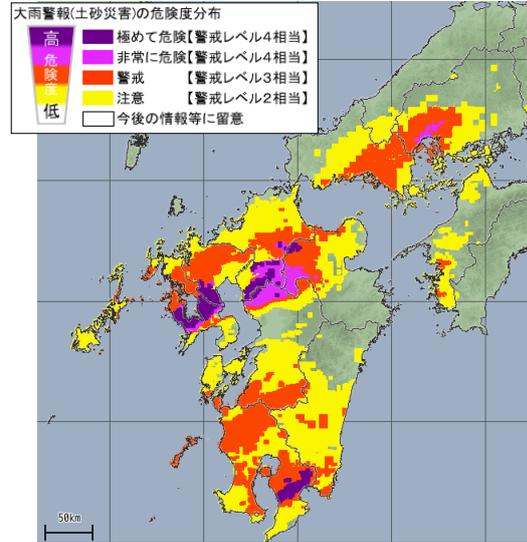
大雨特別警報を発表した頃の危険度分布の状況

7月6日16時の危険度分布（16時30分に福岡県、佐賀県、長崎県に大雨特別警報を発表）

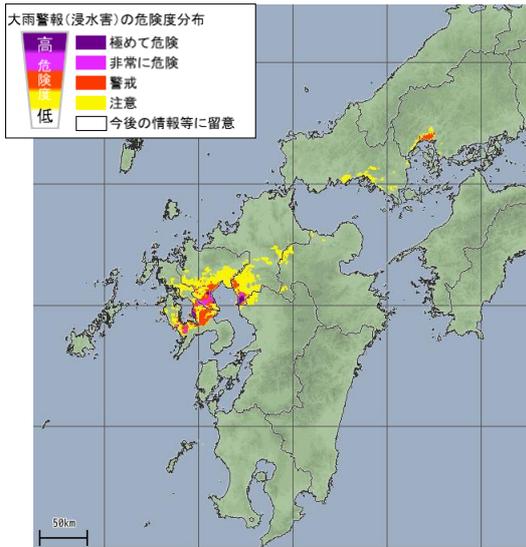
3時間降水量(解析雨量)



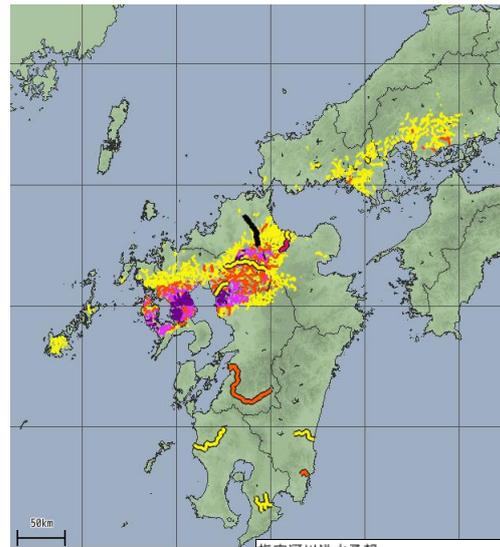
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



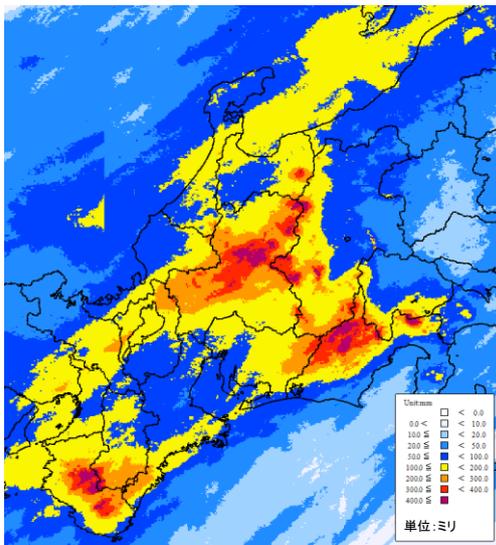
洪水警報の危険度分布



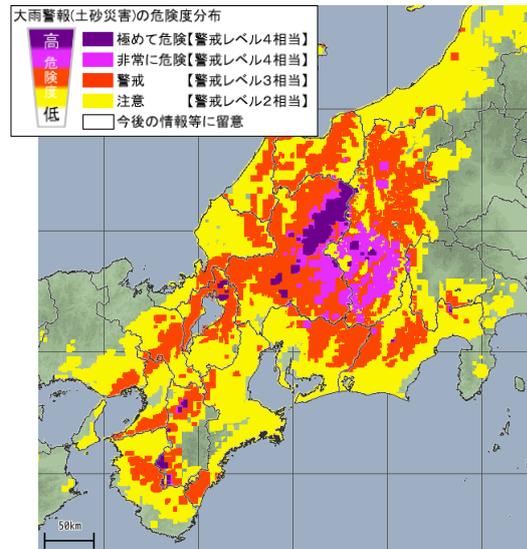
※大雨警報・洪水警報の危険度分布とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

7月8日7時の危険度分布（6時30分に岐阜県に、6時43分に長野県に大雨特別警報を発表）

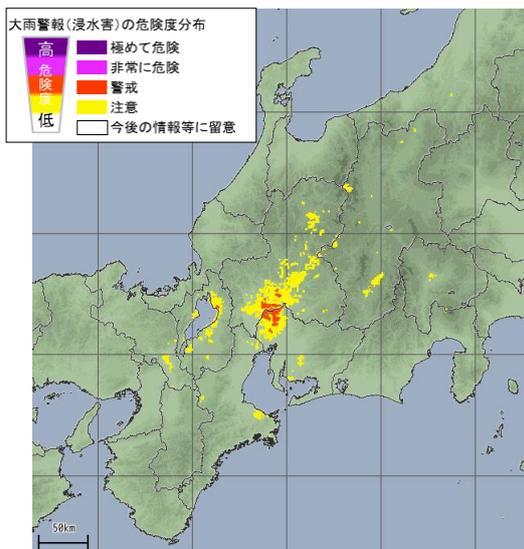
48時間降水量(解析雨量)



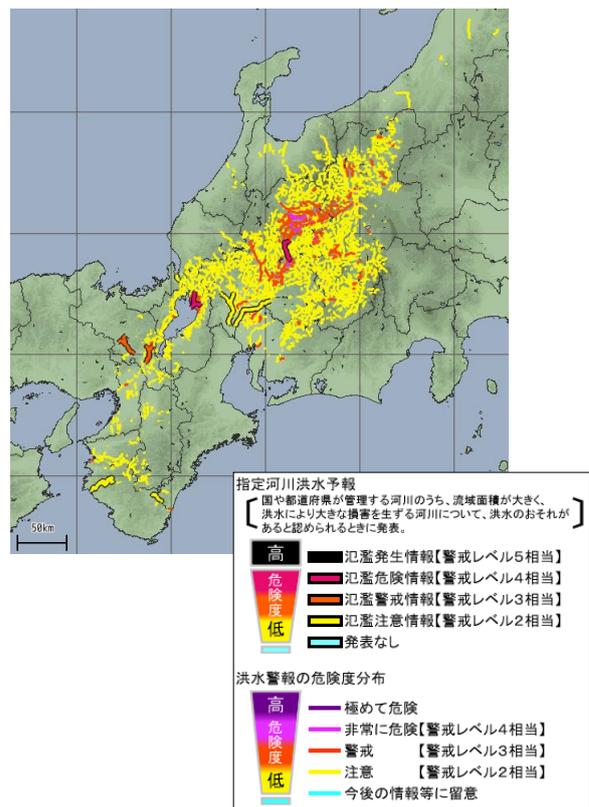
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



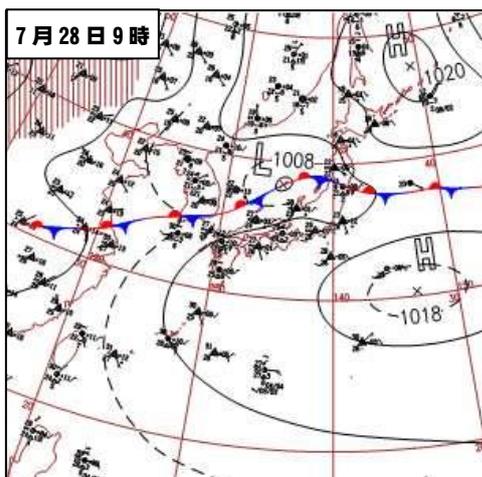
洪水警報の危険度分布



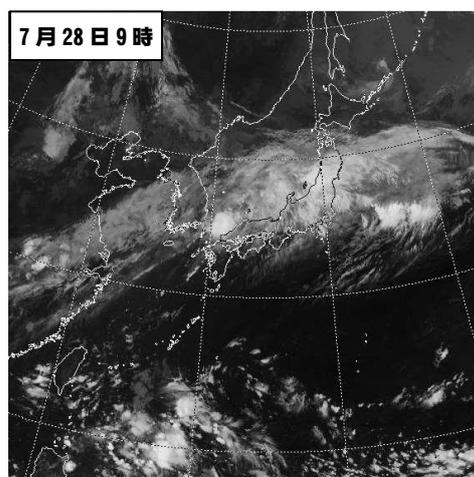
※大雨警報・洪水警報の危険度分布とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

梅雨前線による東北地方を中心とした大雨（7月25日～7月28日）

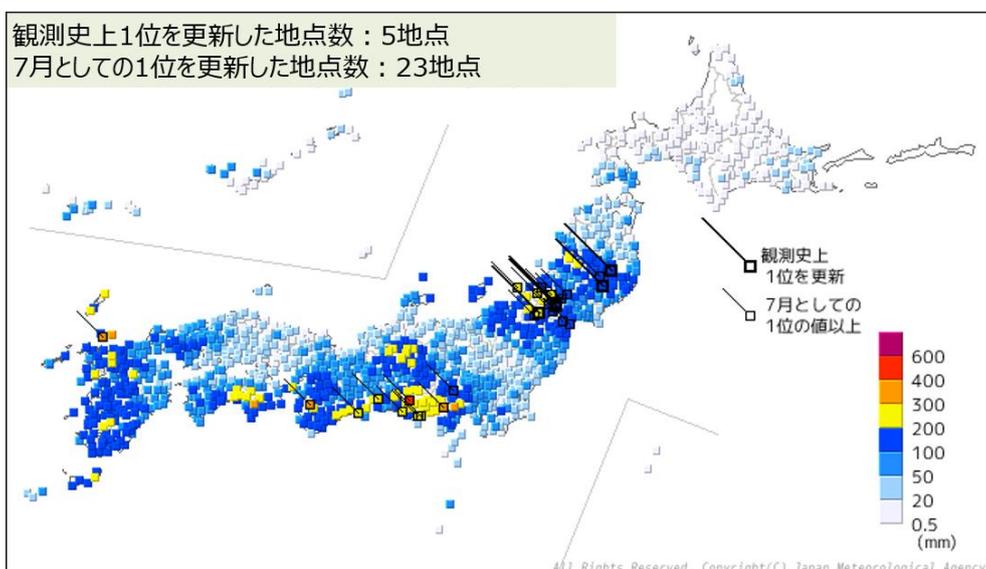
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大48時間降水量分布図（7月25日～7月28日）



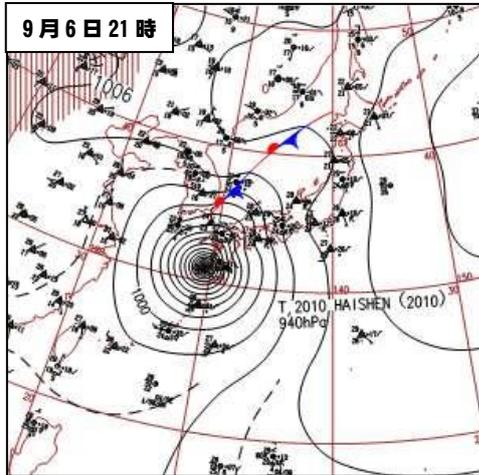
期間総降水量表（上位10地点）（7月17日～7月22日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	高知県	長岡郡本山町	本山(モトヤマ)	679.5
2	長崎県	対馬市	巖原(イヅハラ)	477.5
3	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	470.5
4	大分県	佐伯市	宇目(ウメ)	457.0
5	高知県	吾川郡仁淀川町	池川(イケガワ)	453.0
6	福岡県	久留米市	久留米(クルメ)	450.0
7	長崎県	五島市	福江(フクエ)	445.0
8	宮崎県	延岡市	北方(キタカタ)	437.0
9	高知県	香美市	大栃(オオドチ)	426.5
10	長崎県	南松浦郡新上五島町	有川(アリカワ)	404.0

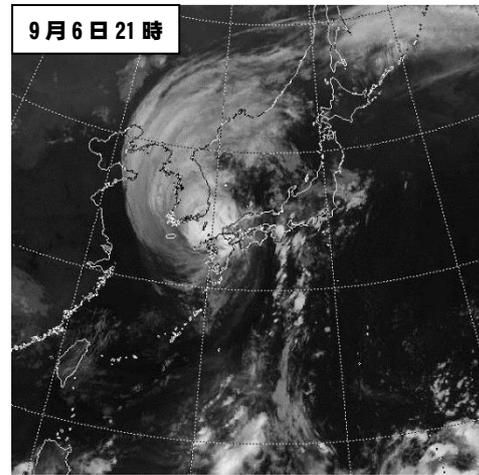
○ 災害番号 (3)

台風第10号による大雨、暴風、高波、高潮 (9月4日~9月7日)

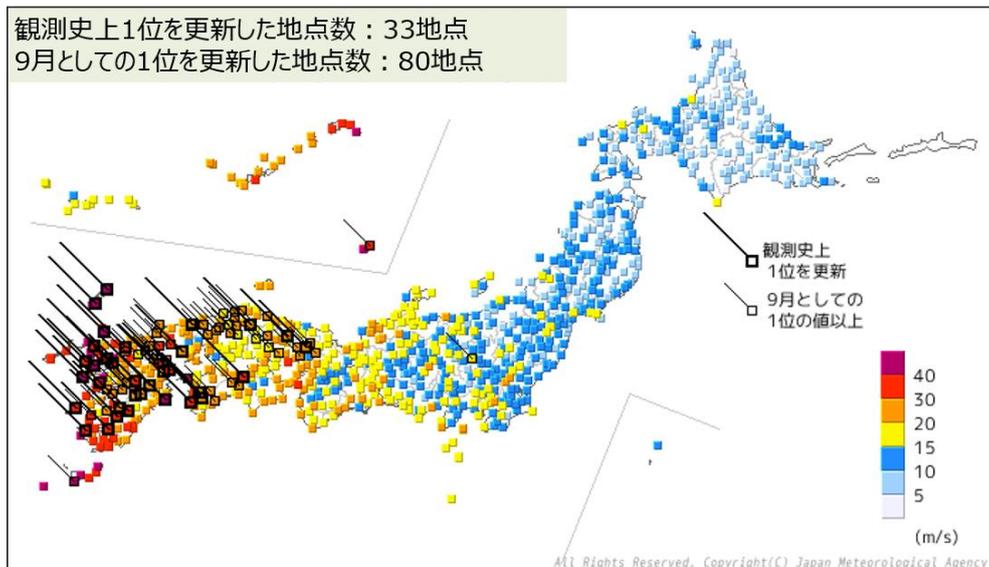
地上天気図



気象衛星画像 (赤外)



期間最大風速分布図 (9月4日~7日)



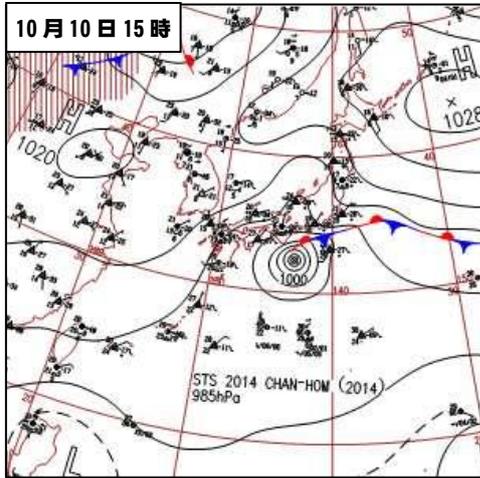
期間最大風速 (上位10地点) (9月4日~7日)

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	風速			
				(m/s)	風向	月日	時分
1	長崎県	長崎市	野母崎(ノモザキ)	59.4	南東	2020/9/7	01:45
2	沖縄県	島尻郡南大東村	南大東(南大東島)(ミナミダ)	51.6	東	2020/9/5	21:38
3	長崎県	対馬市	鱈浦(ワニウラ)	48.9	南東	2020/9/7	07:20
4	鹿児島県	鹿児島郡十島村	中之島(ナカノシマ)	46.5	北東	2020/9/6	14:57
5	鹿児島県	枕崎市	枕崎(マクラザキ)	45.9	南東	2020/9/6	19:49
6	鹿児島県	熊毛郡屋久島町	屋久島(ヤクシマ)	44.8	東南東	2020/9/6	15:53
7	長崎県	対馬市	美津島(ミツシマ)	44.2	南東	2020/9/7	06:18
8	長崎県	雲仙市	雲仙岳(ウンゼンダケ)	43.5	南東	2020/9/7	01:45
9	長崎県	対馬市	巖原(イツハラ)	43.1	南東	2020/9/7	05:55
10	長崎県	平戸市	平戸(ヒラド)	42.8	南東	2020/9/7	03:47

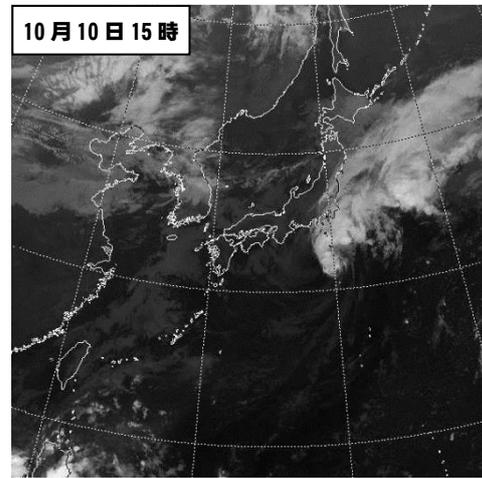
○ 災害番号（5）

台風第14号及び前線による伊豆諸島を中心とした大雨（10月7日～10月11日）

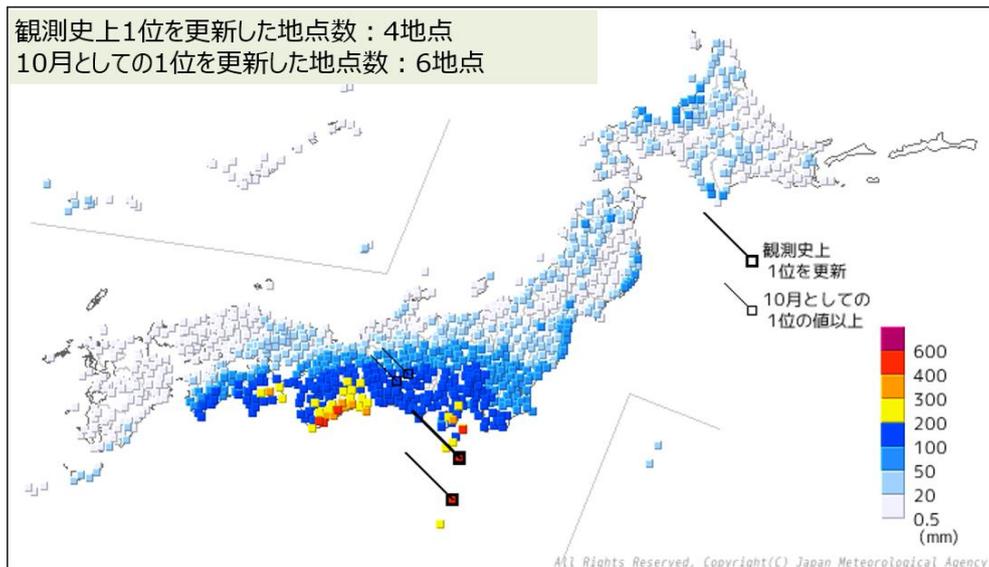
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大48時間降水量分布図（10月7日～11日）



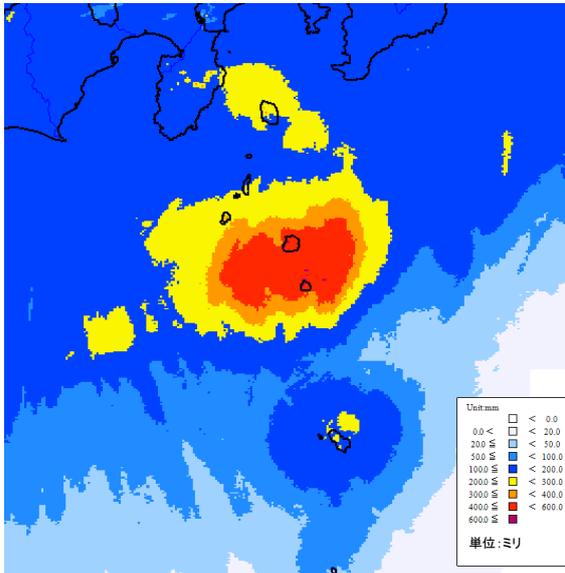
期間最大48時間降水量表（上位10地点）（10月7日～11日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	東京都	三宅村	三宅坪田(ミヤケツボタ)	543.5	2020/10/10	23:00
2	和歌山県	東牟婁郡那智勝浦町	色川(イロカワ)	515.0	2020/10/10	13:50
3	東京都	三宅村	三宅島(ミヤケジマ)	465.0	2020/10/10	22:40
4	三重県	尾鷲市	尾鷲(オワセ)	460.0	2020/10/10	14:40
5	東京都	八丈町	八丈島(ハチジョウジマ)	450.5	2020/10/9	05:30
6	和歌山県	新宮市	新宮(シングウ)	414.0	2020/10/10	15:30
7	東京都	大島町	大島(オオシマ)	403.5	2020/10/10	20:10
8	東京都	八丈町	八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	382.0	2020/10/9	05:20
9	三重県	熊野市	熊野新鹿(クマノアタシカ)	381.5	2020/10/10	14:30
10	静岡県	伊豆市	天城山(アマギサン)	376.0	2020/10/10	20:20

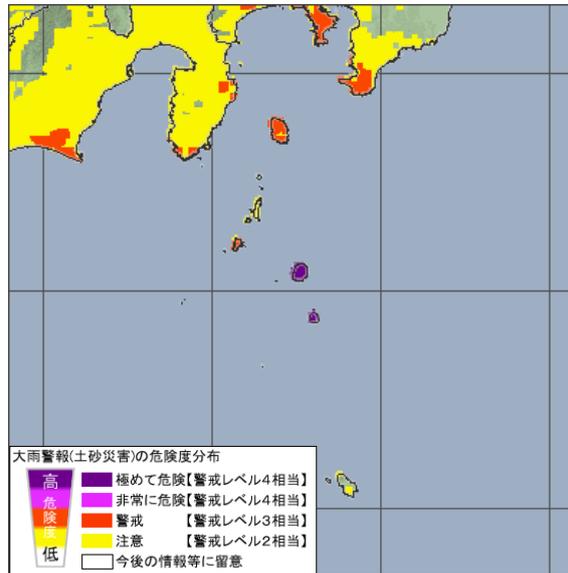
大雨特別警報を発表した頃の危険度分布の状況

10月10日17時の危険度分布（17時00分に三宅島、御蔵島に大雨特別警報を発表）

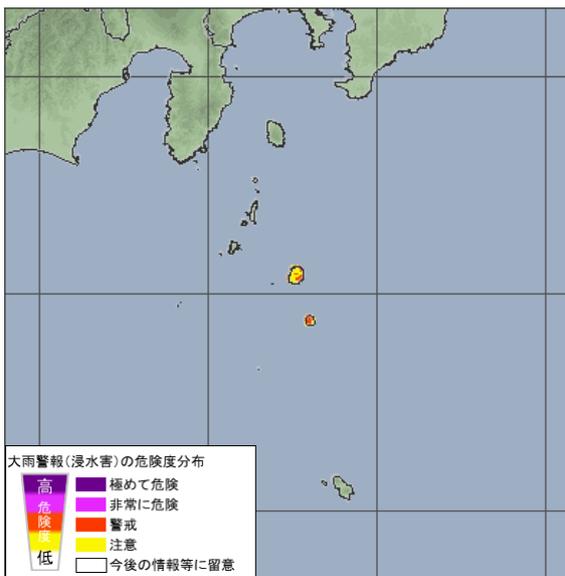
48時間降水量(解析雨量)



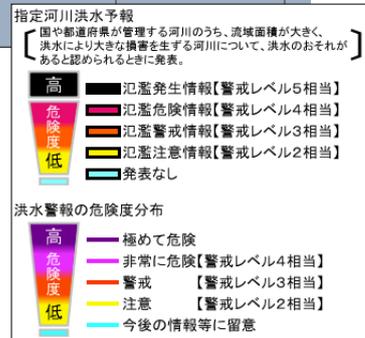
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



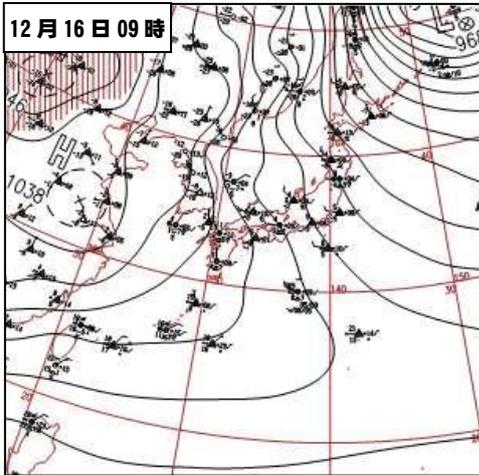
洪水警報の危険度分布



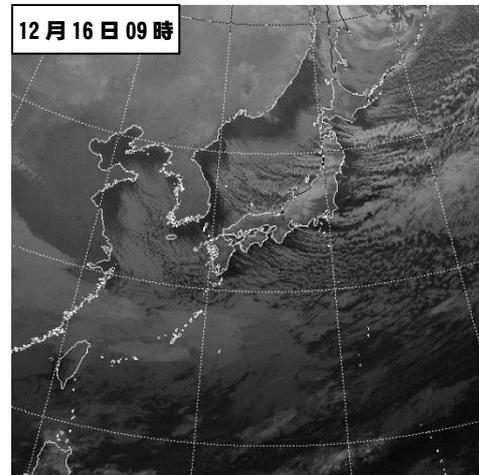
○ 災害番号（6）

強い冬型の気圧配置による大雪（12月14日～12月21日）

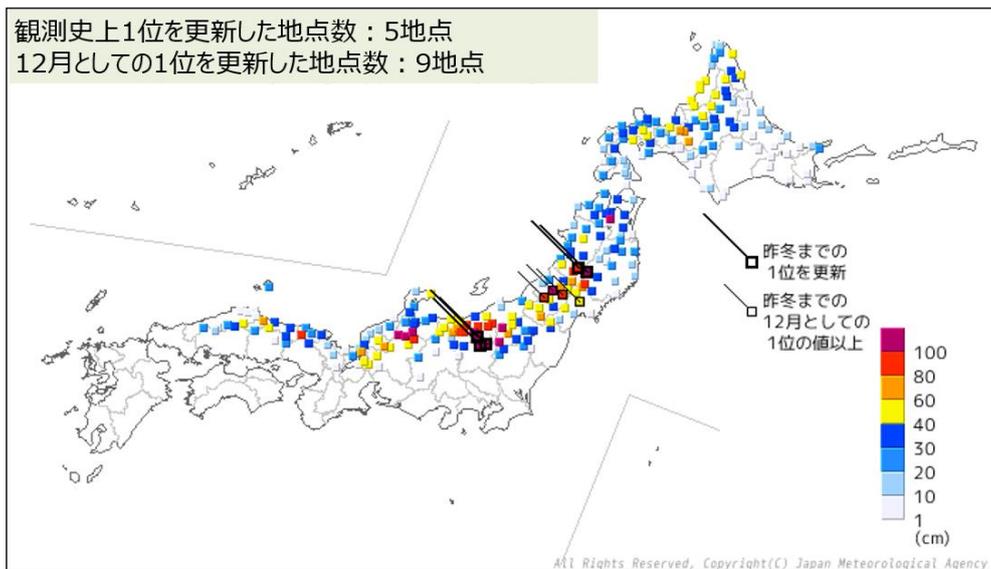
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大 48 時間降雪量分布図（12月14日～21日）



期間最大 48 時間降雪量表（上位 10 地点）（12月14日～21日）

順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値	
				cm	年月日 時分(まで)
1	群馬県	利根郡みなかみ町	藤原(フジワラ)	199]	2020/12/17 02:00
2	群馬県	利根郡みなかみ町	みなかみ(ミナカミ)	149	2020/12/17 14:00
〃	新潟県	中魚沼郡津南町	津南(ツナン)	149	2020/12/16 24:00
4	新潟県	南魚沼郡湯沢町	湯沢(ユザワ)	144]	2020/12/16 14:00
5	岩手県	和賀郡西和賀町	湯田(ユダ)	122	2020/12/16 06:00
6	福島県	南会津郡只見町	只見(タダミ)	118]	2020/12/17 07:00
7	富山県	富山市	猪谷(イノタニ)	111	2020/12/17 04:00
8	福島県	南会津郡檜枝岐村	桧枝岐(ヒノエマタ)	108	2020/12/17 04:00
9	山形県	最上郡大蔵村	肘折(ヒジオリ)	107	2020/12/15 23:00
10	青森県	青森市	酸ヶ湯(スカユ)	106	2020/12/20 20:00

) : 統計を行う対象資料が許容範囲内で欠けていますが、上位の統計に用いる際は一部の例外を除いて原則として正常値と同等に扱います。(準正常値)
] : 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています。(資料不足値)

資料1-2-2 令和2年(2020年)に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	日本版改良藤田(JEF)スケール	気象状況
4月18日 09時頃	不明	神奈川県 中郡大磯町	住家半壊2棟	JEF0	南岸低気圧 寒気の移流
7月8日 07時00分頃	ダウンバースト または ガストフロント	岐阜県 加茂郡八百津町	住家半壊1棟	JEF0	梅雨前線 気圧の谷
7月8日 07時10分頃	不明	愛知県 豊橋市	住家半壊1棟	JEF1	梅雨前線 気圧の谷

被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したものを掲載。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載している。

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)とは、米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをより的確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケール。

階級	風速(m/s)の範囲 (3秒値)	主な被害の状況(参考)
	JEF0	
JEF1	39-52	
JEF2	53-66	
JEF3	67-80	
JEF4	81-94	
JEF5	95-	

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

資料 1-2-3 令和 2 年（2020 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

<内閣府作成資料等から引用>

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

期間	災害原因	気象要因
5/15～7/31	豪雨	梅雨前線

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
8/7～8/9	豪雨	前線、低気圧	島根県	隠岐の島町
9/3～9/7	暴風雨	台風第9号、 台風第10号	福岡県	新宮町
			鹿児島県	屋久島町
			宮崎県	椎葉村
			長崎県	新上五島町
			宮崎県	諸塚村
9/9, 9/10	豪雨	前線	群馬県	みなかみ町

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 令和2年(2020年)台風概要

2-1 令和2年(2020年)に発生した台風

台風の発生数は平年より少ない23個(平年値25.6個)であった。7月までの台風の発生数は2個と平年(月平年値の7月までの合計数は7.7個)よりも少なく、第3号の発生は8月1日9時で、第3号としては台風の統計を開始した1951年以降で2番目に遅い発生であった。一方で、8月以降の発生数は21個で、平年より多く(平年値17.8個)なった。日本への台風の接近数は平年より少ない7個(平年値11.4個)であった。日本への台風の上陸数は0個(平年値2.7個)であった。上陸が無いのは2008年以来で、1951年以降では5回目であった。

表 2.1 令和2年(2020年)の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び平成31年・令和元年(2019年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成31年 /令和元年 (2019年)	発生数	1	1				1	4	5	6	4	6	1	29
	上陸数							1	2	1	1			5
	接近数						1	2	3	5	4	1		15
令和2年 (2020年)	発生数					1	1		8	3	6	3	1	23
	上陸数													0
	接近数								4	3	1			7

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

- ・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風が中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
16 28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	1	26 (0)
17 29	0	0	0	1	0	1	8	5	4	3	3	2	27 (0)
18 30	1	1	1	0	0	4	5	9	4	1	3	0	29 (+)
19 R.1	1	1	0	0	0	1	4	5	6	4	6	1	29 (+)
20 R.2	0	0	0	0	1	1	0	8	3	6	3	1	23 (-)
平年値	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
1981-2010													

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。
 年間の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H.1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
18 30	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
19 R.1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
20 R.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
1981-2010													

台風の日本への上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
16 28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	0	11
17 29	0	0	0	0	0	0	4	2	2	2	0	0	8
18 30	0	0	0	0	0	2	4	7	2	2	1	0	16
19 R.1	0	0	0	0	0	1	2	3	5	4	1	0	15
20 R.2	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0	7
平年値	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
1981-2010													

台風の接近: 台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
18 30	0	0	0	0	0	1	2	5	2	2	0	0	10
19 R. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	0	8
20 R. 2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	5
平年値	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5
1981-2010													

台風の北海道・本州・四国・九州への接近：台風が中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 令和2年(2020年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時			
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km							
1	VONGFONG	5 8 15	6.8	134.0	5 12 21	11.3	129.5	5 14 15	960	5 14 15	45	5 16 15	NE:165 SW:110	5 16 21	18.9	119.5	TD	5 18 15	24.4	127.0
2	NURI	6 10 09	11.3	126.4	6 12 21	16.8	117.6	6 13 15	996	6 13 15	20	6 13 21	E:280 W:220	6 14 09	21.6	112.1	TD	6 14 15	22.6	111.0
3	SINLAKU	7 31 09	16.6	114.0	8 1 09	17.8	110.7	8 2 15	985	8 2 15	20	8 2 21	SE:1300 NW:370	8 3 03	19.2	103.4	TD	8 3 09	20.2	102.2
4	HAGUPIT	7 31 03	15.2	131.2	8 1 15	20.8	127.7	8 4 03	975	8 4 03	35	8 4 03	SE:390 NW:165	8 5 21	36.6	122.7	L	8 12 15		域外
5	JANGMI	8 7 03	14.2	127.5	8 9 03	20.8	126.4	8 10 06	994	8 10 06	23	8 9 15	SE:500 NW:220	8 11 15	44.3	139.5	L	8 15 03	49.1	162.7
6	MEKKHALA	8 9 09	15.1	118.2	8 10 09	19.2	118.6	8 11 03	992	8 11 03	25	8 11 09	SE:220 NW:165	8 11 15	25.6	117.3	TD	8 11 15	25.6	117.3
7	HIGOS	8 16 15	17.6	123.4	8 18 09	20.3	116.9	8 19 09	992	8 19 09	30	8 18 21	NE:220 SW:165	8 20 03	24.0	109.4	TD	8 20 15	26.0	108.7
8	BAVI	8 21 03	18.7	122.8	8 22 09	23.4	122.6	8 26 15	950	8 26 15	45	8 27 03	E:390 W:280	8 27 15	42.0	125.0	L	8 30 03	46.6	124.4
9	MAYSAK	8 27 09	14.8	132.3	8 28 15	17.2	130.2	9 1 21	935	9 1 21	50	9 3 09	560	9 3 15	42.3	129.1	L	9 7 09	51.9	132.1
10	HAISHEN	8 30 21	24.9	145.5	8 31 21	22.6	145.9	9 5 06	910	9 5 06	55	9 6 00	NW:850 SE:650	9 8 03	42.2	129.0	L	9 10 15	42.0	124.0
11	NOUL	9 15 09	12.8	121.8	9 16 03	13.0	118.5	9 18 09	992	9 18 09	23	9 18 21	330	9 19 03	16.2	102.1	TD	9 19 03	16.2	102.1
12	DOLPHIN	9 19 21	21.6	135.0	9 21 09	24.9	134.8	9 23 09	975	9 23 09	30	9 24 12	W:500 E:390	9 24 15	32.7	142.4	L	9 30 03	49.9	168.9
13	KUJIRA	9 25 21	16.6	158.7	9 27 03	20.0	159.3	9 29 21	980	9 29 21	30	9 29 21	SE:410 NW:330	9 30 15	41.0	163.0	L	10 2 03		域外
14	CHAN-HOM	10 4 09	21.4	140.0	10 5 09	22.2	139.2	10 9 06	965	10 9 15	35	10 7 15	440	10 12 03	30.8	142.2	TD	10 19 15	38.2	171.8
15	LINFA	10 7 03	13.8	125.9	10 11 03	14.6	110.2	10 11 09	994	10 11 09	23	10 11 03	N:390 S:220	10 11 21	14.9	107.9	TD	10 12 15	14.2	106.7
16	NANGKA	10 11 09	16.7	119.9	10 12 15	17.6	116.0	10 14 03	990	10 14 03	23	10 13 15	N:560 S:280	10 14 21	19.9	105.9	TD	10 14 21	19.9	105.9
17	SAUDEL	10 19 03	13.1	130.3	10 20 09	15.5	124.5	10 23 15	975	10 23 15	35	10 23 09	NW:390 SE:330	10 25 21	17.5	107.6	TD	10 25 21	17.5	107.6
18	MOLAVE	10 22 09	9.4	137.5	10 24 15	13.1	129.7	10 27 21	940	10 27 21	45	10 28 21	E:500 W:390	10 29 03	15.8	106.4	TD	10 29 09	15.0	105.0
19	GONI	10 26 21	14.1	141.7	10 29 03	16.6	137.8	11 1 03	905	11 1 03	60	11 1 21	N:390 S:220	11 5 21	13.8	110.9	TD	11 6 15	14.7	107.2
20	ATSANI	10 30 21	11.5	142.9	11 3 03	19.8	127.1	11 5 15	992	11 6 21	25	11 5 03	NW:330 SE:220	11 7 15	22.7	119.2	TD	11 7 15	22.7	119.2
21	ETAU	11 6 21	10.0	130.7	11 9 03	12.9	115.4	11 9 15	992	11 9 15	23	11 10 15	N:330 S:165	11 10 21	12.6	107.4	TD	11 11 03	12.4	106.4
22	VAMCO	11 8 09	8.2	135.2	11 9 21	11.9	130.4	11 14 09	955	11 14 09	45	11 12 09	NE:500 SW:280	11 15 21	18.1	105.9	TD	11 16 15	20.1	103.0
23	KROVANH	12 18 09	7.2	127.2	12 20 09	9.6	115.7	12 20 15	1000	12 22 09	18	12 22 09	NW:440 SE:220	12 22 15	7.7	110.6	TD	12 25 09		域外

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 令和2年(2020年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第4号 (2004 HAGUPIT ハグピート)

7月31日3時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は、はじめ北北西に進み約1日後に北西に進路を変えた。熱帯低気圧は、その後も北西の進路を維持して、8月1日15時に沖縄の南で台風第4号となった。台風は東シナ海に入り、3日21時に台湾の北で勢力が最大となった。台風は、4日9時前に華中に上陸し、その後進路を北に変えた後、次第に進路を北東に変えて黄海に入り、5日21時に温帯低気圧となった。温帯低気圧は朝鮮半島と北海道を横断した後、カムチャツカ半島付近で進路を東に変え、8月12日15時前に東経180度を越えた。

(2) 台風第5号 (2005 JANGMI チャンミー)

8月7日3時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北に進んだ。熱帯低気圧は、9日3時に沖縄の南で台風第5号となり、21時に東シナ海上で勢力が最大になった。台風は、次第に進路を北東に変え、11日15時に日本海北部で温帯低気圧となり、15日9時に千島列島の東海上で消滅した。

(3) 台風第8号 (2008 BAVI バービー)

8月21日3時にフィリピンの北海上で発生した熱帯低気圧は、北に進んだ。熱帯低気圧は、22日9時に沖縄の南海上で台風第8号となり、次第に進路を北東に変えた。その後沖縄の西で次第に進路を北に変え、26日9時に東シナ海北部で勢力が最大になった。台風は、27日に朝鮮半島に上陸し、15時に温帯低気圧となった後、北北東にゆっくり進み、30日9時に中国東北区で消滅した。

(4) 台風第9号 (2009 MAYSAK メイサーク)

8月27日9時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、はじめ北に進み、次第に西に進路を変えた。熱帯低気圧は、28日15時に同海域で台風第9号となり、時計回りに半円を描いた。台風は北に進んだ後、31日9時頃には次第に進路を北北西に変え、9月1日9時には、東シナ海で勢力が最大になり、その後次第に北北東に加速した。台風は、3日に朝鮮半島を縦断し、日本海に入った後、朝鮮半島北部に上陸し、3日15時に温帯低気圧となり、7日15時にアムール川下流域で消滅した。

(5) 台風第10号 (2010 HAISHEN ハイシェン)

8月30日21時に硫黄島の東海上で発生した熱帯低気圧は、はじめ南南東に進んだ。熱帯低気圧は、時計回りに方向転換し、31日21時に同海域で台風第10号となって、北西に進んだ。台風は進路を維持したまま、9月4日21時に南大東島の南東海上で勢力が最大になった。台風はその後、北北西に進路を変えて加速し、6日午後東シナ海に入った。台風は、九州の西海上を北上した後、7日午前中に朝鮮半島に上陸し、日本海に入った。8日3時には朝鮮半島北部で温帯低気圧となり、10日21時に中国東北区で消滅した。

(6) 台風第12号 (2012 DOLPHIN ドルフィン)

9月19日21時に沖ノ鳥島の北海上で発生した熱帯低気圧は北に進み、21日9時に同海域で台風第12号となった。台風は22日15時に日本の南で勢力が最大となり、次第に進路を北東に変え、24日15時に八丈島の東南東で温帯低気圧となった。その後、温帯低気圧は日本の東を北東に進み、千島列島の北部で進路を東に変え、30日9時に千島の東海上で消滅した。

(7) 台風第14号 (2014 CHAN-HOM チャンホン)

10月4日9時に日本の南で発生した熱帯低気圧は、はじめ北に進み、次第に西北西に進路を変え、5日9時に同海域で台風第14号となった。台風は、北に進路を変えた後、8日21時に九州の南東海上で勢力が最大となり、本州の南海上を東に進んだ後、南東に進み、12日3時に八丈島の南東で熱帯低気圧となった。熱帯低気圧は、南に進んだ後、13日頃にはほとんど停滞し、14日に北に進み始めた。熱帯低気圧は北東に進路を変えた後、加速して17日9時に日本の東で温帯低気圧となり、さらに東に進み、19日21時にアリューシャンの南で消滅した。

(8) 台風第20号 (2020 ATSANI アッサニー)

10月30日21時にグアム島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、11月2日21時にフィリピンの東で急に東北東へ進路を変え、3日3時に台風第20号となった。台風は反時計回りに回り始め、4日21時に勢力が最大となった。その後、5日21時に西北西に進み、7日15時に台湾の南西で熱帯低気圧となり、7日21時に同海域で消滅した。

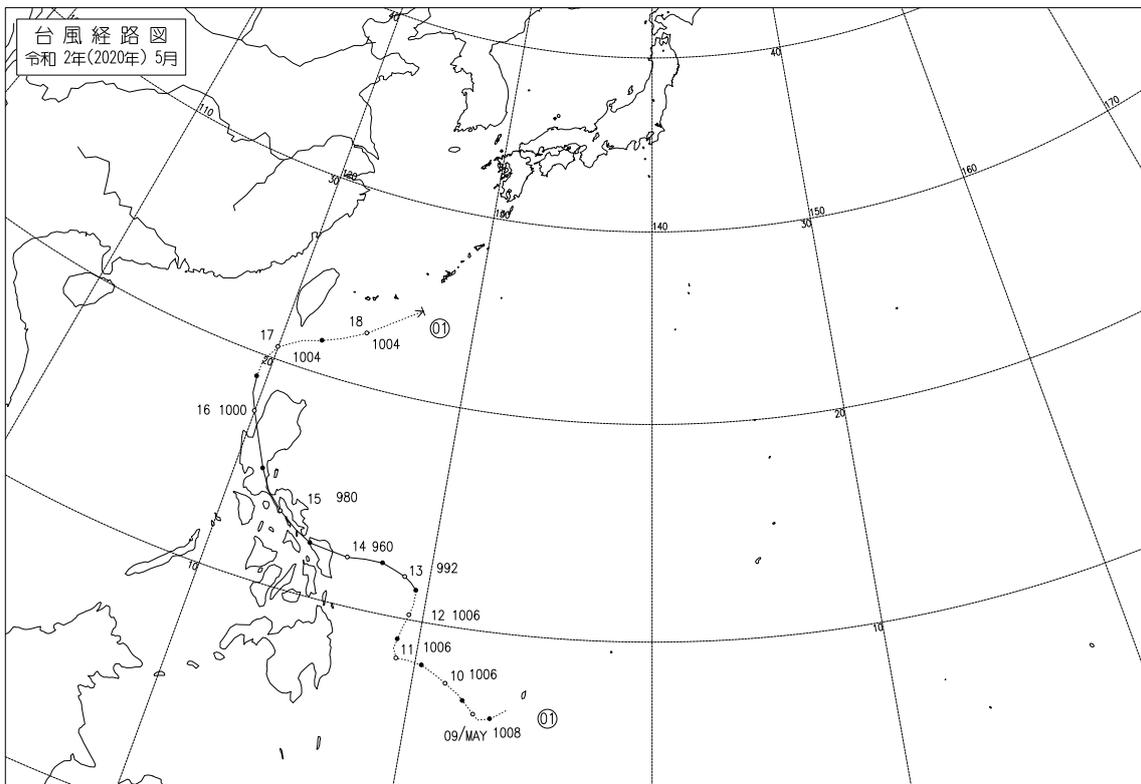
資料2-2-1 令和2年(2020年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
4	8/1	8/4	沖縄・奄美	8/2	8/3	沖縄地方	上陸、通過なし。
5	8/9	8/11	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	8/9	8/10	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、中国地方	上陸、通過なし。
8	8/22	8/27	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	8/22	8/25	沖縄・奄美	上陸、通過なし。
9	8/31	9/3	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	8/31	9/3	沖縄地方、九州南部、九州北部地方	上陸、通過なし。
10	9/4	9/7	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	9/6	9/7	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、中国地方	上陸、通過なし。
12	9/21	9/24	沖縄地方、四国地方、近畿地方、東日本、北日本	9/23	9/24	東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方	上陸、通過なし。
14	10/7	10/12	沖縄・奄美、西日本、東日本	10/7	10/11	沖縄地方、西日本、東日本	上陸、通過なし。
20	11/5	11/7	沖縄地方				上陸、通過なし。

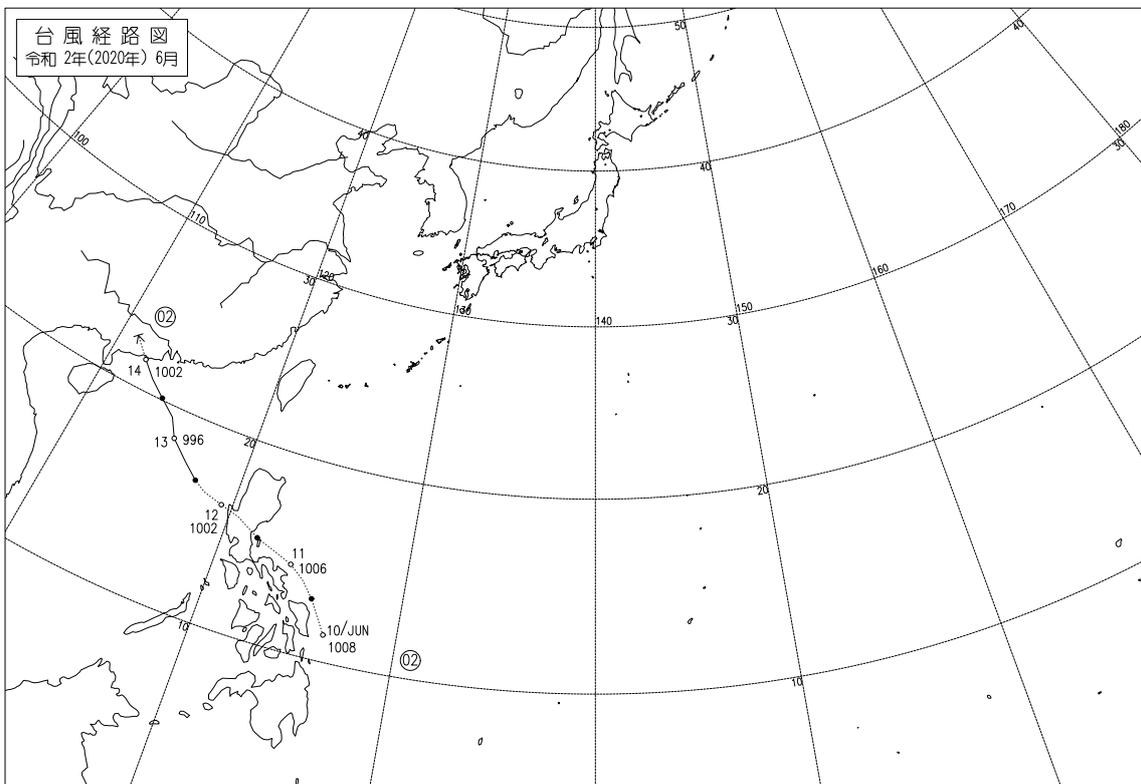
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
 台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

資料 2-2-2 令和 2 年(2020 年)に発生した台風の経路図(月別)

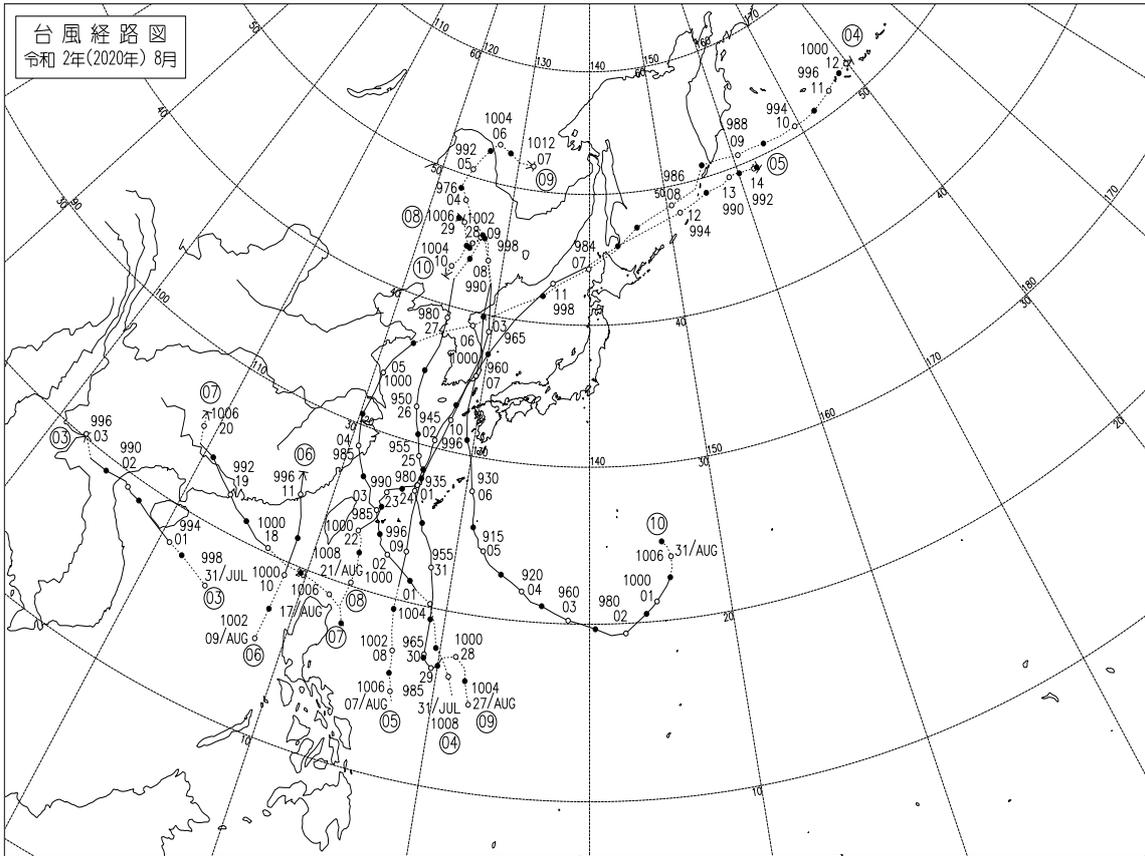
※ 1 月から 4 月及び 7 月は台風の発生がなかったため掲載していない。



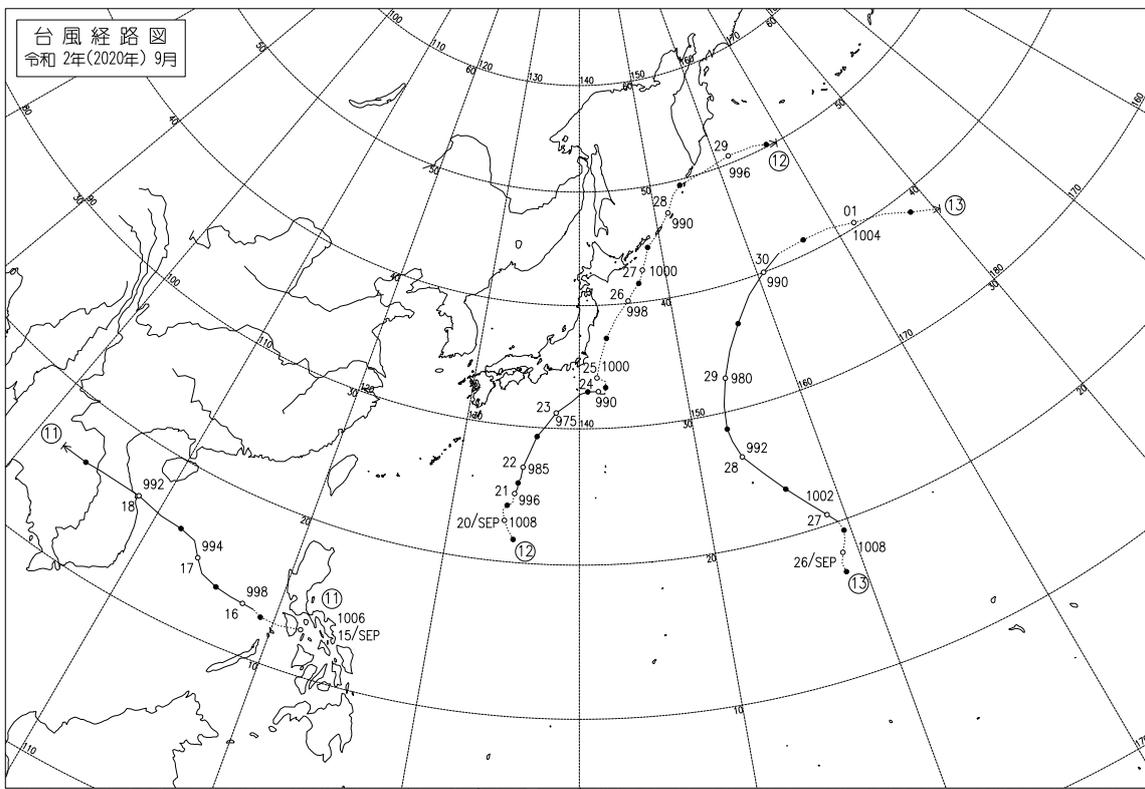
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



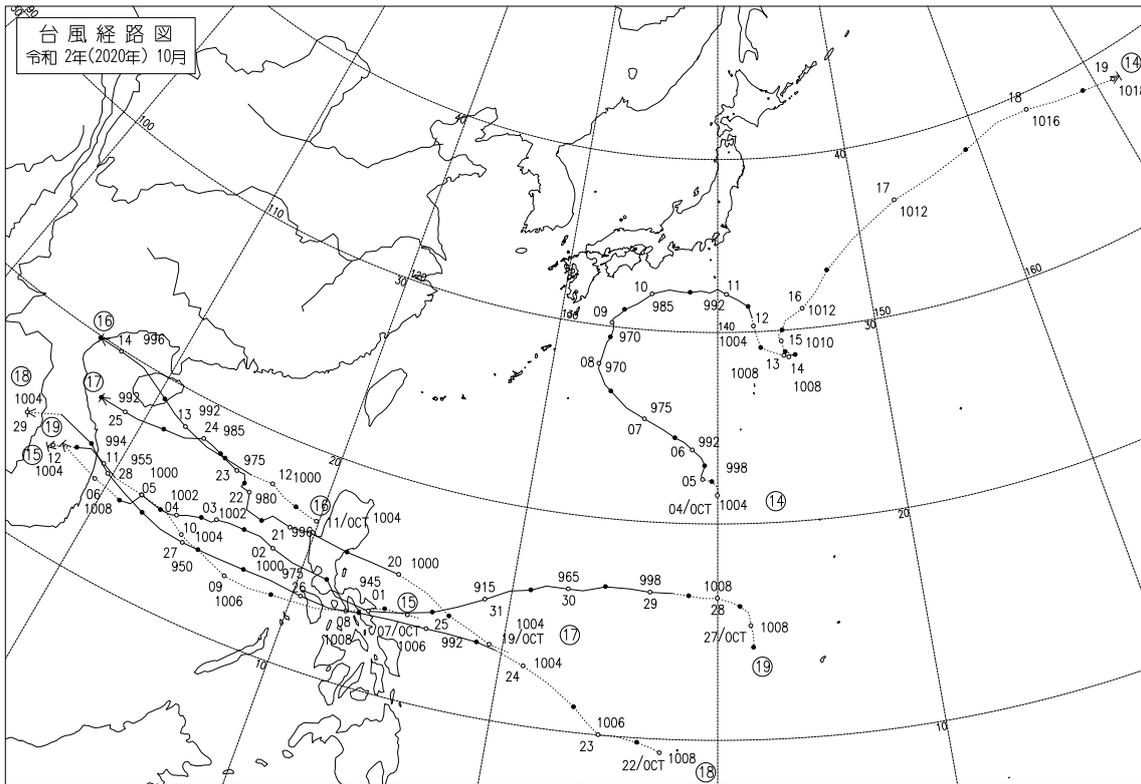
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



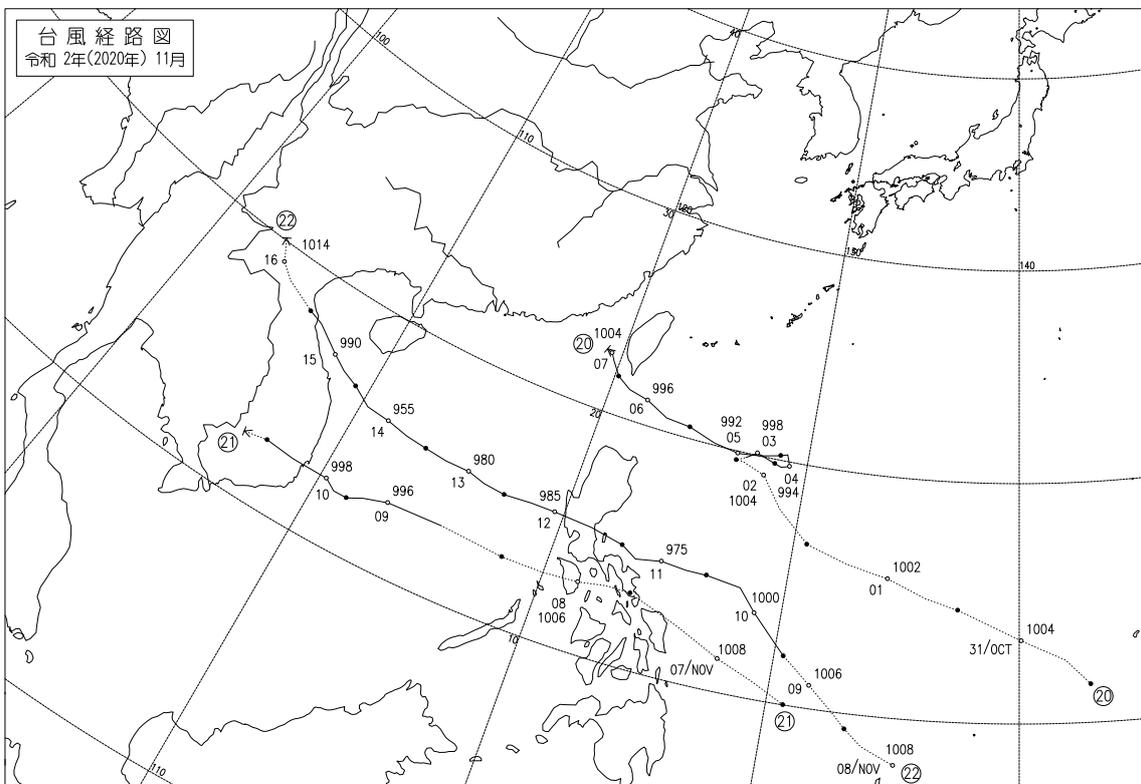
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



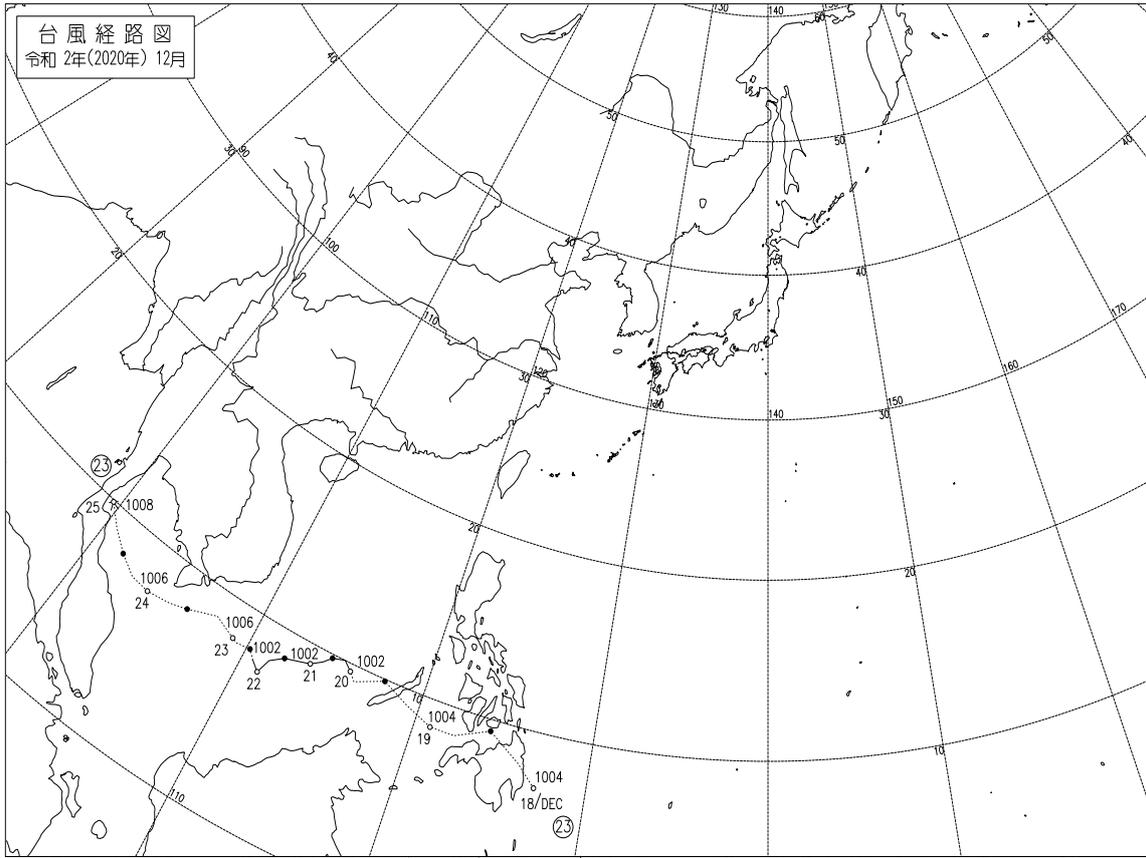
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



3 令和2年（2020年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雪や雨(1～5日)

1日から2日は、冬型の気圧配置(以下、冬型)の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となったが、その他の地域では概ね晴れた。3日は、冬型や気圧の谷の影響で、北陸地方や北日本の日本海側を中心に雪や雨となった。4日は、冬型や日本海の低気圧の影響で、中国地方から北日本にかけての日本海側で雨や雪となった。また、湿った空気の影響で、奄美地方では雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。5日は、冬型の影響で西日本から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。また、湿った空気の影響で、沖縄地方で雨となったところがあったほか、気圧の谷の影響で関東地方では雨となったところがあったが、その他の地域では概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨や雪、西日本や東日本の一部で暴風(6～10日)

6日は、東シナ海の前線の影響で、西日本で雨となったところがあり、寒気の影響で、北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。7日は、東シナ海の前線上に発生した低気圧が東へ進んだ影響で、西日本や東日本で雨となった。また、寒気の影響で、北日本では雨や雪となったところがあった。8日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、全国的に雨や雪となり、西日本や東日本の一部で暴風となった。9日は、日本海の低気圧や気圧の谷の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や東北地方で雨や雪となったほか、伊豆諸島の一部で暴風となったが、その他の地域では概ね晴れた。10日は、寒気の影響で、中国地方から東北地方にかけての日本海側で雨や雪となったが、その他の地域では概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪(11～15日)

11日は、日本の南の停滞前線の影響で沖縄・奄美で雨となったほか、日本海に発生した低気圧が北日本を通過した影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となったが、その他の地域では晴れや曇りとなった。12日は、前線を伴った低気圧が日本の南を東へ進んだ影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨となった。また、日本海やオホーツク海の低気圧の影響で、西日本や北陸地方で雨となり、北日本の日本海側で雨や雪となったところがあった。13日は、前線や湿った空気の影響で、沖縄地方で雨となったほか、日本海の低気圧の影響で東日本や北日本で雨や雪となったところがあり、北陸地方では雷となったところがあった。また、その他の地域では、概ね晴れた。14日は、日本の南の前線や日本海の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本で雨となり、北陸地方や北日本の日本海側で雪や雨となったところがあった。15日は、本州南岸を進む前線を伴った低気圧や日本海の低気圧の影響で、沖縄地方で雨となり、四国地方から北日本にかけて雨や雪となった。

前線を伴った低気圧の影響で西日本から東日本にかけての太平洋側で雨や雪(16～18日)

16日は、東シナ海の前線や前線上に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。また、寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側では雪や雨となった。17日から18日は、前線を伴った低気圧が日本の南から本州南岸を進んだ影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨や雪となり、伊豆諸島では一部で強風となった。また、寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雪や雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で北陸から東北にかけて雪や雨、その後高気圧に覆われるが次第に日本の東に移動し停滞前線や低気圧の影響で西日本を中心に雨(19～25日)

19日から20日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で北陸地方や北日本で雪や雨となり、北陸地方では雷となったところがあったが、その他の地域では、概ね晴れや曇りとなった。21日は、湿った空気の影響で、沖縄地方では雨となったところがあったほか、冬型の影響で、近畿地方や北陸地方、北日本で雪や雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。22日は、東シナ海の前線や前線上に発生した低気圧の影響で、西日本や北陸地方で雨となった。また、気圧の谷の影響で北海道の日本海側で雪となった。23日は、本州南岸を進む低気圧や停滞前線の影響で、西日本から東北地方にかけて雨となったが、沖縄・奄美や北海道では高気圧に覆われて晴れた。24日は、日本の南に停滞した前線の影響で、九州南部で雨となったほか、オホーツク海の低気圧からのびる前線や気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨となり、北海道では一部で強風となった。25日は、日本の南に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美や西日本を中心に雨となった。

また、寒気の影響で、北海道では雪となったところがあった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、西日本から東日本にかけての一部で大雨、その後冬型になり北海道では一部で暴風(26~31日)

26日は、日本の南の前線や前線上に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本の太平洋側で雨となり、九州南部では一部で大雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。また、その他の地域では、概ね晴れた。27日から28日にかけては、西日本を通過した低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、西日本や関東甲信地方では一部で大雨となり、西日本や東海地方では一部で強風となり、西日本では雷となったところがあった。29日は、前線を伴った低気圧が関東地方から東北地方にかけて通過した影響で、全国的に雨となったほか、北日本では雪となったところがあり、関東地方や東北地方では、一部で大雨となった。30日から31日は、冬型の影響で、沖縄・奄美で雨となったほか、西日本から北日本にかけての日本海側で雨や雪となり、北海道では一部で暴風となった。また、その他の地域では、概ね晴れた。

2月

前線を伴った低気圧や冬型の気圧配置の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雪や雨、北陸地方では一部で暴風(1~6日)

1日から2日は、冬型や北海道付近の低気圧の影響で、西日本の日本海側では雨となり、北陸地方や北日本では雨や雪となったが、その他の地域では概ね晴れた。3日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本では雨や雪となった。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨となったところがあった。4日は、日本海を東に進む低気圧の影響で、北陸地方や北日本で雪や雨となった。また、東シナ海から日本の南にのびる前線の影響で、沖縄・奄美では雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。5日から6日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、次第に冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雪となり、北陸地方では一部で暴風となり、雷となったところがあった。また、日本の南の前線の影響で、沖縄・奄美では雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。

はじめ前線を伴った低気圧の影響で沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、期間を通して前線を伴った低気圧や冬型の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雪や雨(7~11日)

7日は、前線を伴った低気圧が南西諸島を通過した影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となった。また、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、北日本の日本海側で雪となったが、その他の地域では概ね晴れた。8日から9日は、冬型の影響で西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。10日は、日本海の低気圧の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となったほか、北陸地方では雷となったところがあったが、その他の地域では概ね晴れた。11日は、冬型の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雪となったが、その他の地域では概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨や雪、九州南部や東海地方では一部で暴風(12~18日)

12日から13日は、前線を伴った低気圧が西日本や東日本を通過した影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、東海地方では一部で暴風となった。14日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となった。また、寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雪や雨となった。15日から16日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から日本海へ進んだ。また、日本の南の前線上の低気圧が西日本を通過した。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、北海道では雪や雨となった。17日から18日にかけては、北日本を通過した低気圧や寒気の影響で全国的に雨や雪となり、九州南部では一部で暴風、四国地方や伊豆諸島、東北地方では一部で強風となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。

低気圧や気圧の谷の影響で北陸地方や北日本では雪や雨(19~21日)

19日は、日本海の低気圧の影響で、北日本の日本海側では雪や雨となったが、その他の地域では概ね晴れた。20日は、寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側では雨や雪となったが、その他の地域では概ね晴れた。21日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたが、寒気の影響で北日本では雪や雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧や冬型の影響で全国的に雨や雪、東日本から北日本にかけて一部で暴風(22~29日)

22日から23日は、前線が西日本を通過したほか、日本海の前線を伴った低気圧が北日本を通過し、次第に冬型となった。この影響で全国的に雨や雪となり、東日本や北日本では一部で暴風となり、東北地方では雷となったところがあった。24日は、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、日本海の低気圧や寒気の影響で、北日本では雨や雪となった。25日から26日は、東シナ海から本州南岸にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨や雪となったが、北海道では概ね晴れた。27日は、冬型の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨や雪となった。28日から29日にかけては、東シナ海の前線を伴った低気圧が本州南岸を移動した影響で、西日本や東日本の太平洋側で雨となった。また、日本海の前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となった。

3月

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨や雪、その後冬型の影響で北日本の日本海側で雪や雨(1～6日)

1日は、日本の南の前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美、西日本の太平洋側や伊豆諸島で雨となり、低気圧が北日本を通過した影響で北陸地方や北日本で雨や雪となった。2日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を通過した影響で沖縄・奄美、西日本や東日本の太平洋側で雨となり、日本海の低気圧が東に進んだ影響により北陸地方や北日本で雨や雪となった。3日は、北日本の低気圧や寒気の影響で西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨や雪となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。4日から5日は、前線を伴った低気圧が発達しながら本州南岸を進んだ。また、日本海の前線を伴った低気圧が東へ進んだ。この影響で全国的に雨や雪となり、関東地方や北日本では一部で強風となり、北陸地方や東北地方では雷となったところがあった。6日は、冬型の影響により北陸地方や北日本で雪や雨となり、その他の地域ではおおむね晴れた。北海道地方では一部で強風となった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、その後冬型の影響で北日本の日本海側で雨や雪、九州や四国地方、東北地方では一部で大雨、九州南部や伊豆諸島、北日本では一部で暴風(7～12日)

7日から8日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から本州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、伊豆諸島では一部で暴風となった。9日から10日は、前線を伴った低気圧が西日本から東日本に進み、日本海の低気圧が発達しながら北日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、九州や四国地方、東北地方では一部で大雨となった。また、九州南部では一部で暴風、北海道地方では一部で強風となり、沖縄・奄美では雷となったところがあった。11日から12日は、北日本近海が発達した低気圧や寒気の影響で西日本から北日本にかけての日本海側で雨や雪となり、伊豆諸島や北日本では一部で暴風となり、九州南部や東海地方では一部で強風となった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨や雪、九州南部や北海道地方では一部で暴風(13～16日)

13日は、南西諸島付近の前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美や九州南部では雨となった。また、前線を伴った低気圧が日本海を東に進んだ影響で、北陸地方や北日本では雨や雪となり、北海道地方では一部で暴風となった。14日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進んだ影響で、沖縄地方から東日本にかけて雨となった。15日は、日本海を東に進む低気圧の影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に雨となり、九州南部では一部で強風となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。16日は、日本の東の前線を伴った低気圧や寒気の影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪となったが、沖縄奄美や九州南部ではおおむね晴れた。また、九州南部では一部で暴風、四国地方では一部で強風となったほか、中国地方、北陸地方、関東地方では雷となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で東日本や北日本で雨や雪、伊豆諸島や北日本では一部で暴風(17～21日)

17日は、日本海を東に進む低気圧や寒気の影響で北陸地方や東北地方では雨となり、北陸地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。18日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で、奄美地方で雨となったほか、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や東北地方で雨となり、北陸地方では雷となったところがあった。19日から20日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から本州南岸を東に進んだ。また、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を東へ進んだ。この影響で、19日は沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。また、中国地方では一部で強風となり、沖縄地方や北陸地方では雷となったところがあった。20日は北陸地方や北日本で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。また、伊豆諸島や北日本では一部で暴風、関東地方では一部で強風となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。21日は

オホーツク海の発達した低気圧や気圧の谷の影響で北日本では雨や雪となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。また、北海道地方では一部で暴風となったほか、東北地方では雷となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で西日本の日本海側で雨、北陸地方や北日本で雨や雪(22～25日)

22日は、前線を伴った低気圧が九州付近を東へ進んだ影響で、沖縄地方から九州南部にかけて雨となった。また、前線を伴った低気圧が東北地方を通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や東北地方で雨となり、北陸地方では雷となったところがあった。23日から24日は、日本の東の前線を伴った低気圧や寒気の影響で、西日本の日本海側で雨となり、北陸地方から北海道地方にかけて雨や雪となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。25日は、高気圧に覆われて全国的に晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、北日本で雨や雪、先島諸島や九州北部地方、伊豆諸島、小笠原諸島の一部で大雨(26～31日)

26日は華中から九州にのびる前線の影響で、九州南部から中国地方にかけて雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。27日から28日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、九州付近に発生した前線上の低気圧が東へ進んだ。この影響で、全国的に雨となり、先島諸島や九州北部地方では一部で大雨となり、関東地方では一部で強風となったほか、沖縄・奄美や九州南部では雷となったところがあった。29日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となった。30日から31日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄地方から東日本にかけて雨となり、小笠原諸島では大雨となったが、その他の地域はおおむね晴れた。

4月

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、九州南部や東北地方では一部で暴風、その後低気圧や前線の影響で西日本の日本海側や東日本、北日本で雨(1～6日)

1日から2日は、前線を伴った低気圧が発達しながら本州南岸から日本の東に進んだ影響で、全国的に雨となり、九州南部では一部で暴風となったほか、東海地方では雷となったところがあった。3日は、高気圧に覆われて全国的におおむね晴れた。また、寒冷前線が通過した影響で、東北地方では一部で暴風となった。4日から5日は、日本海の低気圧や前線の影響で、西日本の日本海側や東日本、北日本で雨となったほか、日本の南の前線の影響で沖縄・奄美で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。また、関東地方から北海道地方にかけて雷となったところがあった。6日は、北海道付近の寒気の影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となったほか、湿った空気の影響で沖縄地方では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

低気圧や冬の気圧配置の影響で東日本や北日本で雨や雪(7～10日)

7日は、日本の南の前線や低気圧の影響により沖縄地方で雨となったほか、日本海の低気圧や寒気の影響で北海道地方では雨や雪となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。8日から9日は、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨となった。また、日本海の低気圧や寒気の影響で、北陸地方、関東甲信地方、北日本では雨や雪となった。その他の地域ではおおむね晴れた。また、北陸地方、関東地方、東北地方で雷となったところがあった。10日は、北日本を通過した低気圧や寒気の影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となり、東北地方では雷となったところがあったが、その他の地域では概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で沖縄地方から東北地方にかけて雨、西日本や東日本では一部で大雨、九州南部や関東地方では一部で暴風(11～16日)

11日は、東シナ海の前線を伴った低気圧や湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となり、西日本では雨となったところがあった。また、本州南岸や日本海の低気圧の影響で関東地方や北日本では雨となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。12日から13日には、前線を伴った低気圧が東シナ海から日本の東に発達しながら進んだ影響で、沖縄地方から東北地方にかけて雨となったが、北海道地方ではおおむね晴れた。また、西日本や東日本では一部で大雨となり、九州南部や関東地方では一部で暴風、西日本や東海地方では一部で強風となったほか、西日本や東日本では雷となったところがあった。14日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、日本の東の発達した低気圧や日本海の低気圧の影響で近畿地方から東北地方にかけて雨となったところがあり、関東地方では一部で暴風となった。15日は、湿った空気の影響で、奄美地方で雨となったほか、低気圧が東北地方を通過した影響で、北日本では雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴

れや曇りとなった。16日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、九州南部付近の低気圧の影響で九州では雨となったところがあった。また、湿った空気の影響で東日本では雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、東日本や北日本では一部で大雨、東海地方や東北地方では一部で暴風(17~21日)

17日は、華中から西日本へのびる前線や前線上の低気圧の影響で、西日本や東日本で雨となり、東海地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。18日は、東日本を通過した前線を伴った低気圧や日本海の低気圧の影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、東日本や東北地方では一部で大雨となった。また、東海地方や東北地方では一部で暴風となり、伊豆諸島や関東地方では一部で強風となったほか、西日本から東北地方にかけて、雷となったところがあった。19日は、東北地方付近の低気圧の影響で、北陸地方や東北地方で雨となり、東北地方では一部で大雨となったほか、北日本では一部で強風となった。また、東シナ海の前線を伴った低気圧が東へ進んだ影響で、沖縄・奄美や西日本で雨となった。その他の地域ではおおむね晴れた。20日は、本州南岸を通過した前線を伴った低気圧や日本海の低気圧の影響で、全国的に雨となり、北海道地方では一部で大雨となった。21日は、日本の南の前線の影響で、沖縄・奄美で雨となったほか、北海道付近の低気圧の影響で、北日本で雨となった。

前線の影響で沖縄・奄美で雨、低気圧の影響で西日本の日本海側や東日本、北日本で雨や雪(22~26日)

22日から23日は、日本の南の前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となった。日本の東や北海道近海の低気圧や寒気の影響で、西日本の日本海側や東日本で雨となり、北日本では雨や雪となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。24日は、日本海や東日本の低気圧の影響で、西日本の日本海側や東日本で雨となり、北日本では雨や雪となったところがあったほか、北陸地方や関東地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。25日は日本海の前線を伴った低気圧の影響で、北日本で雨となったが、日本の南に高気圧に覆われてその他の地域はおおむね晴れた。26日は、日本の南の前線の影響で沖縄・奄美では雨となった。また、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、西日本や東日本の日本海側や北日本で雨となり、中国地方や北陸地方で雷となったところがあった。

湿った空気の影響で沖縄・奄美で雨、低気圧や寒気の影響で東日本や北日本で雨、その後高気圧に覆われて全国的に晴れ(27~30日)

27日から28日は、湿った空気の影響で沖縄・奄美で雨、本州南岸の低気圧の影響で、関東地方で雨、寒気の影響で北陸地方や北日本で雨となり、関東地方で雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。29日は、北海道付近の低気圧の影響で、北日本で雨となったところがあり、北海道地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。30日は、日本の南の高気圧に覆われて全国的に晴れた。

5月

高気圧に覆われて晴れ、その後前線や低気圧の影響で全国的に雨、南西諸島では一部で大雨(1~6日)

1日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、湿った空気の影響で沖縄地方では雨となったところがあったほか、気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。2日は、日本の南の前線の影響で南西諸島では雨となり、一部で大雨となった。また、サハリン付近の低気圧や低気圧からのびる前線の影響で、北海道では雨となり、雷となったところがあり、その他の地域ではおおむね晴れた。3日は、日本の南の前線と東シナ海の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本では雨となり、奄美地方では一部で大雨となった。また、沖縄・奄美や九州北部では雷となったところがあった。4日は、本州南岸の前線を伴った低気圧や、沿海州からオホーツク海に進んだ低気圧や低気圧からのびる前線の影響で、全国的に雨となり、九州では雷となったところがあった。5日は、オホーツク海の低気圧や低気圧から伸びる前線や気圧の谷の影響で、中国地方の日本海側から北日本にかけて雨となり、中国地方では雷となったところがあった。また、湿った空気の影響で、関東地方で雨となった。6日は、南西諸島付近の低気圧や華中から日本の南へのびる前線の影響で南西諸島では雨となり、一部で大雨となり、雷となったところがあった。また、本州南岸から日本の東の前線や前線上の低気圧の影響で、西日本で雨となったところがあったほか、東日本や北日本で雨となり、西日本から北日本にかけて、雷となったところがあった。

前線や低気圧の影響で関東地方や北日本の一部で雨となったものの、高気圧に覆われて全国的に晴れ(7~8日)

7日は、高気圧に覆われて全国的におおむね晴れたが、本州南岸から日本の東に伸びる前線や低気圧の影響で、関東地方で雨となったところがあり、雷となったところがあったほか、上空の寒気の影響で北日本では雨となったところがあった。8日は、高気圧に覆われて全国的に晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、その後、前線や低気圧の影響で南西諸島や北日本で雨となり沖縄地方の一部で大雨(9～13日)

9日から10日は、黄海の前線を伴った低気圧が黄海から北日本まで進んだ影響で全国的に雨となり、近畿地方や東海地方で雷となったところがあった。11日は、北海道近海の低気圧や低気圧から日本の南にのびる前線、沿海州から北海道付近に進んだ低気圧の影響で、沖縄・奄美や近畿地方から北日本にかけて雨となり、沖縄地方や北海道地方では雷となったところがあった。12日は、日本の南の前線の影響で沖縄・奄美では雨となり、沖縄地方では一部で大雨となり、雷となったところがあった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。13日は、北海道付近に発生した低気圧や気圧の谷の影響で北日本では雨となり、東日本では雨となったところがあったほか、関東地方や北日本では雷となったところがあった。

全国的に晴れたが、その後前線や低気圧の影響で全国的に雨、奄美地方や西日本、東北地方の一部で大雨(14～19日)

14日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、北海道付近の低気圧や気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。15日から16日は、華中から本州南岸にのびる前線や黄海で発生し東に進む低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州南部や九州北部地方では一部で大雨となり、沖縄地方や西日本では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で北日本でも雨となったところがあった。17日は、華中から日本の東へのびる前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部では雨となり、奄美地方では一部で大雨となったほか、西日本や東日本の太平洋側で雨となったところがあった。また、気圧の谷の影響で北陸地方や北日本で雨となった。18日から19日は、沖縄・奄美から西日本に停滞した前線や前線上に発生した低気圧、南西諸島付近の熱帯低気圧、日本海の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、西日本や東北地方では一部で大雨となり、東北地方では一部で強風となったほか、沖縄・奄美から東日本にかけて雷となったところがあった。

日本の南の前線や前線上に発生した低気圧の影響で、南西諸島で雨となり一部で大雨、日本海の低気圧の影響で西日本の日本海側や東日本から北日本にかけて雨(20～25日)

20日は、日本海の低気圧の影響で、西日本の日本海側や東日本、東北地方で雨となった。21日から22日は、日本の南に停滞した前線や前線上に発生した低気圧の影響で、南西諸島で雨となり、沖縄地方では、一部で大雨となり、雷となったところがあった。また、日本海の低気圧や湿った空気の影響で、東日本や東北地方で雨となり、西日本や北海道地方では雨となったところがあった。23日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で、南西諸島で雨となり、沖縄地方では一部で大雨となった。また、湿った空気の影響で東日本から北日本にかけての太平洋側で雨となり、東北地方では雷となったところがあった。24日から25日は、日本の南の前線の影響で、南西諸島で雨となった。また、日本海を東に進んだ前線を伴った低気圧の影響で、中国地方から東日本にかけての日本海側や北日本で雨となり、北日本では、雷となったところがあった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、その後高気圧に覆われて全国的に晴れるが再び前線や低気圧の影響で南西諸島や西日本で雨(26～31日)

26日は、気圧の谷や湿った空気の影響で西日本や東日本では雨となり、北日本では雨となったところがあった。また、近畿地方、東日本、東北地方では雷となったところがあった。27日は、日本の南の前線の影響で南西諸島では雨となり、沖縄・奄美では雷となったところがあった。また、気圧の谷や北日本を通過した低気圧の影響で、東日本や北日本で雨となったほか、関東地方、北日本では雷となったところがあった。28日から29日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、湿った空気の影響で東日本や北海道地方では、雨となったところがあり、東日本では雷となったところがあった。30日から31日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となった。また、近畿地方、東日本、東北地方では雷となったところがあった。

6月

前線や前線上の低気圧、上空の寒気の影響で全国的に雨(1～2日)

1 日は、日本の南の前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、沖縄では雷となったところがあった。北日本ではおおむね晴れたが、上空の寒気の影響で東北地方では雨となったところがあり、雷となったところがあった。2 日は、日本の南の前線の影響により南西諸島で雨となった。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で東日本や北日本で雨となり、雷となったところがあったが、西日本ではおおむね晴れた。

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美や九州で雨、沖縄・奄美や九州南部では一部で大雨、北海道付近の低気圧の影響で関東甲信地方や北日本の一部で雨(3~8日)

3日から4日は、九州南部付近に停滞した前線の影響により、奄美地方から九州にかけて雨となり、奄美地方や九州南部では一部で大雨となり、沖縄・奄美で雷となったところがあった。また、北海道付近の低気圧の影響で北海道地方では雨や雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。5日は、九州南部付近に停滞した前線の影響で、南西諸島では雨となったところがあり、雷となったところがあった。また、北海道付近の低気圧や気圧の谷の影響で、北日本で雨となったところがあり、関東地方や北日本では雷となったところがあった。6日は、南西諸島付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、九州南部では一部で大雨、沖縄・奄美では雷となったところがあった。また、前線上の低気圧や湿った空気の影響で関東甲信地方で雨となり、雷となったところがあったほか、千島近海の低気圧の影響により北海道地方で雨となったところがあった。7日から8日は、南西諸島付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により、南西諸島で雨となり、一部で大雨、雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響により北日本で雨となったところがあり、北海道地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

前線や前線上の低気圧、前線を伴った低気圧の影響により全国的に断続的に雨、沖縄・奄美から東日本にかけて一部で大雨(9~14日)

9日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美や九州南部では雨となり、四国地方で雨となったところがあり、沖縄地方では一部で大雨、沖縄・奄美では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で北海道地方では雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。10日は、西日本付近に停滞する前線の影響により沖縄・奄美から東海地方にかけて雨となり、沖縄地方や近畿地方では一部で大雨となった。また、その他の地域はおおむね晴れたが、関東地方では雷となったところがあった。11日は、西日本から東日本に停滞した前線や沿海州の前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となり、雷となったところがあった。12日から13日は、西日本から東日本に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により、奄美地方から東日本にかけて雨となり、東北地方では雨となったところがあり、西日本では一部で大雨、西日本や関東地方では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雨となったところがあり、雷となったところがあった。14日は、本州付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により、西日本から東北地方にかけて雨となり、中国地方や東日本では一部で大雨、九州や北陸地方では雷となったところがあった。また、東海地方では一部で強風となった。

前線や前線上の低気圧の影響で奄美地方や九州で雨、四国地方から東日本にかけて一部で雨、九州南部では一部で大雨、その後西日本や東日本で雨、西日本や伊豆諸島では一部で大雨、期間を通じて北海道付近の低気圧の影響で北日本では雨(15~19日)

15日から16日は、九州南部付近に停滞した前線の影響で、奄美地方から九州にかけて雨となり、四国地方で雨となったところがあった。九州南部では一部で大雨となり、雷となったところがあった。また、気圧の谷や日本海の低気圧の影響で北日本では雨となり、近畿地方や東日本で雨となったところがあった。近畿地方から北日本にかけて雷となったところがあり、東海地方では一部で強風となった。17日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響により奄美地方や九州南部で雨となり、北海道付近の低気圧の影響で北海道地方では雨となった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。18日から19日は、日本付近に前線が停滞し、前線上の低気圧が西日本を通過して日本の東に進んだ影響で、奄美地方から東日本にかけて雨となり、西日本や伊豆諸島では一部で大雨、九州北部地方では雷となったところがあった。また、北海道付近の低気圧や上空の寒気の影響で北日本では雨となり、東北地方では雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美や九州南部で雨、沖縄・奄美では一部で大雨、前線上の低気圧の影響で東日本の太平洋側で雨、湿った空気の影響で北日本では一部で雨(20~24日)

20日から21日は、南西諸島付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨

となり、奄美地方では一部で大雨となった。また、上空の寒気の影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側や北海道地方で雨となったところがあったほか、湿った空気の影響で、近畿地方や関東甲信地方で雨となったところがあったが、そのほかの地域ではおおむね晴れた。22日から23日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響で沖縄・奄美で雨となり、一部で大雨となったほか、沖縄地方では雷となったところがあった。また、前線上の低気圧が本州南岸から日本の東へ進んだ影響で東日本から北日本にかけての太平洋側で雨となり、伊豆諸島では一部で強風となった。そのほかの地域ではおおむね晴れた。24日は、南西諸島付近から本州南岸に停滞する前線の影響で沖縄・奄美や東日本から東北地方の太平洋側で雨となったところがあった。また、暖かく湿った空気の影響で九州北部地方では雨となったところがあったが、そのほかの地域ではおおむね晴れた。

はじめ前線や前線上の低気圧、その後前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨(25～30日)

25日から26日は、前線が日本付近に停滞し、前線上の低気圧が西日本から日本の東に進んだ。この影響で全国的に雨となり、九州北部地方では一部で大雨、全国的に雷となったところがあった。27日から28日は、西日本から東日本に停滞した前線や前線上の低気圧、北海道付近の低気圧の影響で全国的に雨となった。また、九州や東日本では一部で大雨、西日本から北日本にかけて雷となったところがあった。29日は、奄美地方から九州付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により、九州を中心に雨となった。また、北海道付近の低気圧の影響により北陸地方で雨となったところがあり、北日本で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。30日は、前線を伴った低気圧が黄海から日本海に進んだ影響で全国的に雨となり、西日本や東日本では一部で大雨、沖縄・奄美や九州で雷となったところがあった。

7月

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄地方から九州南部や山陰や近畿地方から北日本にかけて雨、その後、前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、奄美地方から東日本にかけて一部で大雨(1～5日)

1日から2日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧、日本海の低気圧の影響で、全国的に雨となった。また、奄美地方や東日本では一部で大雨となり、沖縄・奄美、東日本、東北地方では雷となったところがあった。3日から4日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となり、西日本から北日本にかけて雷となったところがあった。5日は、華中から日本の東にのびる前線の影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、沖縄・奄美で雨となったところがあった。また、九州南部では一部で大雨となり、雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響で全国的に雨、奄美地方から東日本にかけて一部で大雨となり九州では大雨(6～11日)

6日から7日は、華中から日本の東にのびる前線や日本海の低気圧の影響で西日本から北日本にかけて雨となり、沖縄・奄美で雨となったところがあった。また、九州北部地方では大雨、西日本や東日本では一部で大雨となり、雷となったところがあった。8日から9日は、華中から日本の東にのびる前線や北日本を通過した低気圧の影響で全国的に雨となり、奄美地方から東日本にかけて一部で大雨となった。また、全国的に雷となったところがあり、関東地方では一部で強風となった。10日から11日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、奄美地方から東北地方にかけて雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となった。また、西日本から東北地方にかけて雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄地方から東北地方にかけて雨、西日本や東海地方、甲信地方、伊豆諸島の一部で大雨、低気圧の影響で北海道では一部で雨(12～15日)

12日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、東日本や東北地方では雷となったところがあったが、沖縄・奄美では高気圧に覆われておおむね晴れた。13日から14日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、西日本や東海地方では一部で大雨、北陸地方や東北地方では雷となったところがあった。また、沖縄・奄美では高気圧に覆われておおむね晴れた。15日は、華中から日本の東にのびる前線や日本海の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、甲信地方では一部で大雨、沖縄・奄美では雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄地方から九州南部にかけて及び近畿地方から東北地方にかけて雨、東日本では一部で大雨、その後、前線や前線上の低気圧の影響で全国的に雨(16~22日)

16日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、南西諸島や九州、東日本、東北地方で雨となり、沖縄・奄美では雷となったところがあった。17日から18日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部、近畿地方、東日本で雨となり、東北地方で雨となったところがあったが、北海道地方はおおむね晴れた。また、東日本では一部で大雨となり、沖縄・奄美や東日本、東北地方で雷となったところがあった。19日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧、湿った空気の影響で、南西諸島や九州、伊豆諸島、東北地方で雨となり、中国地方や東日本で雨となったところがあった。また、伊豆諸島では一部で大雨となり、九州南部や九州北部地方、東北地方では雷となったところがあった。20日は、前線を伴った低気圧が朝鮮半島付近を東に進んだ影響で、九州や東日本で雨となり、東日本では雷となったところがあった。また、その他の地域ではおおむね晴れた。21日は、前線を伴った低気圧が日本海を東に進んだ影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、雷となったところがあったが、沖縄・奄美や西日本の太平洋側ではおおむね晴れた。22日は、西日本から東日本にかけて停滞した前線や北海道付近の低気圧の影響で、九州北部地方から北日本にかけて雨となり、沖縄地方、近畿地方、東日本では雷となったところがあった。また、沖縄・奄美や九州南部では高気圧に覆われておおむね晴れた。

前線や前線上の低気圧の影響で全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨(23~26日)

23日から24日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、西日本では一部で大雨となった。また、西日本や東日本では雷となったところがあった。25日から26日は、華中から日本の東にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、雷となったところがあった。また、西日本や東日本では一部で大雨となった。

前線や前線上の低気圧の影響で沖縄地方から東北地方にかけて雨、西日本から東北地方にかけて一部で大雨(27~31日)

27日は、華中から日本の東にのびる前線の影響で全国的に雨となり、西日本から北日本にかけて一部で大雨となり、雷となったところがあった。28日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、北陸地方や東北地方では一部で大雨となった。また、沖縄地方や西日本、東海地方では雷となったところがあった。29日から30日は、華中から日本の東にのびる前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州北部地方から東日本にかけて雨となり、北日本では雨となったところがあった。また、沖縄地方や西日本では雷となったところがあった。31日は、低気圧や寒気を伴った気圧の谷の影響で東日本や東北地方で雨となり、近畿地方では雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。また、北陸地方では一部で大雨となり、近畿地方や東海地方、東北地方で雷となったところがあった。

8月

台風第4号の影響により沖縄地方で雨、一部で大雨や暴風、低気圧の影響により北海道地方では雨、東日本や東北地方では一部で雨(1~4日)

1日は、日本の東の低気圧や寒気を伴った気圧の谷の影響で関東地方や東北地方を中心に雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。2日から3日は、台風第4号が接近した影響により沖縄地方で雨となり、一部で大雨や暴風となった。また、オホーツク海を東に進む前線を伴った低気圧の影響で、北海道地方では雨となったところがあった。その他の地域はおおむね晴れたが、気圧の谷や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本や東日本では雨や雷となったところがあった。4日は、台風により流れ込んだ暖かく湿った空気の影響で、沖縄地方で雨となったところがあったほか、北海道付近の低気圧の影響で、北海道地方では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

低気圧や低気圧からのびる前線の影響で西日本から東日本の日本海側や北日本で雨、西日本から北日本にかけて一部で大雨、北日本の一部で暴風(5~8日)

5日から6日は、北海道付近に停滞する前線や前線上の低気圧の影響により、北海道地方を中心に雨となった。その他の地域ではおおむね晴れたが、沖縄地方や甲信地方では湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり雨や雷となったところがあった。7日は、低気圧や低気圧からのびる前線の影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側や北海道地方で雨となり、中国地方や北海道地方では一部で大雨、北海道地方では一部で暴風となった。また、沖縄・奄美から東日本にかけて雷となったところがあった。8日は、東日本付近に停

滞した前線や日本海の前線上の低気圧の影響により、北陸地方や東北地方で雨となり、北陸地方では一部で大雨となったほか、西日本や北海道地方では雨となったところがあった。また、九州北部地方や関東地方では、雷となったところがあった。

台風第 5 号の影響により沖縄・奄美や西日本で雨、西日本では一部で大雨、前線や前線上の低気圧の影響により北陸地方や北日本で雨、東北地方では一部で大雨、その後、台風第 5 号から変化した温帯低気圧や低気圧からのびる前線の影響で西日本の日本海側や東日本から北日本にかけて雨(9～13 日)

9 日は、台風第 5 号が接近した影響により沖縄・奄美で雨となり、一部で強風となったほか、西日本では雨や雷となったところがあった。また、北日本に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で北陸地方や東北地方を中心に雨となり、東北地方では一部で大雨となった。10 日から 11 日は、台風が東シナ海から日本海を北上し暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、沖縄・奄美や西日本、北陸地方で雨や雷となったところがあり、西日本では一部で大雨となった。また、北日本付近に停滞した前線や北海道付近の前線上の低気圧、その後北海道付近に接近した台風第 5 号から変わった低気圧の影響で北海道地方では雨となり、東北地方では雨となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れたが、東海地方や関東地方では湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、雷となったところがあった。12 日から 13 日は、千島近海の低気圧からのびる前線や気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨となり、雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方や東日本の太平洋側では雨や雷となったところがあった。

前線を伴った低気圧や停滞前線の影響により北日本を中心に雨(14～20 日)

14 日から 17 日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、その後東北付近に前線が停滞した影響により、北日本で雨となり、雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方や関東地方で雨や雷となったところがあった。18 日は、高気圧に覆われて全国的大おむね晴れた。19 日から 20 日は、北海道付近の前線の影響により北海道地方で雨となった。その他の地域ではおおむね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方で雨や雷となったところがあった。

台風第 8 号の影響により南西諸島や西日本の太平洋側を中心に雨、南西諸島や九州では一部で大雨、沖縄地方では一部で暴風、低気圧の影響により東日本の一部で雨(21～27 日)

21 日は、熱帯低気圧が接近した影響により沖縄地方で雨となった。また、北日本付近に停滞した前線の影響により北日本で雨となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄・奄美から東日本にかけて雨や雷となったところがあった。22 日は、台風第 8 号が発生し先島諸島に接近した影響で、沖縄地方で雨となり、一部で大雨、暴風となったほか、雷となったところがあった。また、本州南岸の低気圧や台風により流れ込んだ暖かく湿った空気の影響で、西日本や東日本で雨や雷となったところがあったほか、日本の東の前線の影響で、東北地方では雨となったところがあった。23 日から 24 日は台風が東シナ海を北東に進んだ影響で、沖縄・奄美で雨となり、一部で大雨、強風となったほか、雷となったところがあった。また、本州南岸の低気圧や台風により流れ込んだ暖かく湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨や雷となったところがあった。25 日から 27 日は、台風が東シナ海を北上した影響で暖かく湿った空気が流れ込み、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、奄美地方や九州では一部で大雨となったほか、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけて雷となったところがあった。

台風第 8 号から変化した温帯低気圧や低気圧からのびる前線の影響により東日本や北日本で雨、東海地方や東北地方では一部で大雨、西日本では一部で雨、その後、台風第 9 号の影響により沖縄地方では雨となり一部で暴風(28～31 日)

28 日は、暖かく湿った空気が流れ込み、全国的に晴れたため大気の状態が不安定となった。この影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあり、東海地方では一部で大雨となったほか、九州や東海地方で雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。29 日から 30 日は、低気圧が北海道付近を通過し、低気圧からのびる前線が北日本付近に停滞した影響により、北日本で雨となり、雷となったところがあり、東北地方では一部で大雨となった。その他の地域ではおおむね晴れたが、日本のはるか南の台風第 9 号の影響で暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、雨や雷となったところがあった。31 日は、台風第 9 号が沖縄地方に接近した影響により、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方

では一部で暴風、奄美地方では一部で強風となり、雷となったところがあった。また、東日本付近に停滞した前線や日本海の低気圧の影響で東日本や北日本で雨となり、東日本では雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れたが、台風第 9 号や日本の南の台風第 10 号の影響で暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、雨や雷となったところがあった。

9月

台風第 9 号の影響により沖縄・奄美や西日本から北日本にかけての太平洋側で雨、一部で大雨や暴風(1~3日)

1 日は、台風第 9 号が東シナ海を北上した影響で、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方では一部で大雨となったほか、沖縄・奄美では一部で暴風となった。また、台風第 9 号や日本の南の熱帯低気圧から流れ込む暖かく湿った空気の影響で、西日本から北日本の太平洋側で雨となり、雷となったところがあった。2 日から 3 日は、台風第 9 号が九州の西海上を北上した影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本から北日本にかけての太平洋側で雨となり、西日本や東海地方では一部で大雨となったほか、九州北部地方では一部で暴風、沖縄・奄美では一部で強風となり、沖縄・奄美から東日本にかけて雷となったところがあった。

前線の影響で全国的に雨、一部で大雨、その後、台風第 10 号の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて雨、一部で大雨や暴風(4~8日)

4 日は、台風第 9 号から変わった温帯低気圧からのびる前線の影響で全国的に雨となり、東北地方では一部で大雨となったほか、全国的に雷となったところがあった。5 日は、日本の南の台風第 10 号や日本付近に停滞した前線の影響により、全国的に雨となり、一部で大雨、沖縄地方では一部で暴風となったほか、全国的に雷となったところがあった。6 日から 7 日は、台風第 10 号が日本の南から朝鮮半島へ進んだ影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、一部で大雨、暴風となったほか、雷となったところがあった。8 日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、北海道付近の前線の影響により北海道で雨や雷となったところがあったほか、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東北地方にかけて雨となったところがあった。

前線や前線上の低気圧、日本の南の熱帯低気圧の影響により全国的に雨、一部で大雨(9~14日)

9 日から 10 日は、沖縄・奄美から北日本に停滞した前線の影響で全国的に雨となり、奄美地方や関東地方では一部で大雨となったほか、全国的に雷となったところがあった。11 日から 14 日は、華中から日本の東にのびる前線や前線上の低気圧、日本の南の熱帯低気圧の影響で全国的に雨となり、西日本や東北地方では一部で大雨となったほか、全国的に雷となったところがあった。

前線の影響により沖縄・奄美から東日本にかけて雨、九州北部地方では一部で大雨、日本海の低気圧や気圧の谷の影響により東日本の一部や北日本で雨、北海道地方の一部で大雨、その後、低気圧や前線の影響で全国的に雨(15~18日)

15 日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響により、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。また、日本海の低気圧や気圧の谷の影響により、北陸地方や関東甲信地方、北日本で雨となり、北海道地方では一部で大雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。16 日は、西日本付近に停滞した前線の影響により九州で雨となり、南西諸島や西日本、東日本では雨となったところがあった。また、日本海の低気圧や気圧の谷の影響により、北海道地方では雨となった。17 日は、西日本から東日本にかけて前線が停滞した影響で、西日本や東日本の日本海側を中心に雨となり、九州北部地方では一部で大雨となり、北日本では日本海側を中心に雨となったところがあった。また、西日本や北陸地方、東北地方では、雷となったところがあった。18 日は、北海道付近の低気圧や低気圧から西日本にのびる前線の影響で、全国的に雨となり、西日本や東海地方では雷となったところがあった。

台風第 12 号や前線や前線上の低気圧の影響で沖縄・奄美や西日本から北日本にかけての太平洋側で雨、伊豆諸島や東北地方の一部で大雨、北日本付近の低気圧の影響で北日本の一部で雨(19~23日)

19 日から 20 日は、南西諸島から日本の東にかけて停滞した前線や日本の南の熱帯低気圧の影響により、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。また、日本海の低気圧や気圧の谷の影響により、北日本では雨や雷となったところがあった。21 日は、台風第 12 号や日本の南に停滞した前線の影響により、伊豆諸島や関東地方で雨となり、沖縄・奄美では雨となったところがあった。また、寒気を伴った低気圧の影響により、北日本では雨や雷となったところがあったが、その他の地域で

はおおむね晴れた。22日は、日本の南の前線や台風第12号の影響により沖縄・奄美や近畿地方から関東地方にかけての太平洋側で雨となった。また、気圧の谷の影響により北海道地方で雨となったところがあった。23日は、日本の南を北東に進む台風第12号の影響で、関東甲信地方や東北地方の太平洋側で雨となり、伊豆諸島や東北地方では一部で大雨、伊豆諸島では一部で強風となったほか、沖縄・奄美や西日本から東海地方にかけての太平洋側では雨となったところがあった。また、気圧の谷の影響により北海道地方で雨や雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響により全国的に雨、一部で大雨(24~28日)

24日は、東シナ海から日本に南に進んだ低気圧の影響で、奄美地方から北陸地方にかけて雨となり、九州では一部で大雨となった。また、台風第12号から変わった温帯低気圧や前線の影響で、関東甲信地方や東北地方の太平洋側では雨となったところがあり、伊豆諸島では一部で強風となった。その他の地域ではおおむね晴れた。25日から27日は、日本の南から日本の東に進んだ低気圧や低気圧からのびる前線、日本海の低気圧の影響により全国的に雨となり、一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。28日は、日本の南に停滞する前線や気圧の谷の影響で沖縄地方では雨となったほか、上空の寒気の影響により、近畿地方から北日本にかけての日本海側で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や西日本で雨、九州南部では一部で大雨(29~30日)

29日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、気圧の谷の影響により奄美地方で雨となり、四国地方や中国地方では雨となったところがあった。30日は、低気圧や気圧の谷の影響で沖縄・奄美や西日本で雨となり、九州南部では一部で大雨となり、四国地方や中国地方では雷となったところがあったが、その他の地域はおおむね晴れた。

10月

前線を伴った低気圧の影響により西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、一部で大雨や暴風(1~6日)

1日は、低気圧や気圧の谷の影響により北陸地方で雨となり、沖縄・奄美や東日本から北日本にかけての日本海側では雨となったところがあったほか、東海地方や北海道地方では雷となったところがあったが、西日本ではおおむね晴れた。2日から3日は、前線を伴った低気圧が北海道付近を通過した影響で、東北地方の日本海側や北海道地方で雨となり、一部で大雨となり、雷となったところがあった。その他の地域では、おおむね晴れた。4日は、サハリンの低気圧からのびる前線の影響で北海道地方では雨となり、東北地方では雨となったところがあった。また、前線や湿った空気の影響で西日本では雨となったところがあった。5日から6日は、前線を伴った低気圧が発達しながら北海道付近を通過した影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側や北海道地方で雨となり、北海道地方では一部で強風となったほか、北日本では雷となったところがあった。

台風第14号の影響で全国的に雨、一部で大雨や暴風(7~11日)

7日から8日は、日本の南の前線や台風第14号の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となったほか、九州南部では一部で暴風、九州北部地方や伊豆諸島では一部で強風となった。9日から10日は、台風第14号が本州南岸を北東に進んだ影響で西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、一部で大雨となった。また、沖縄・奄美や東北地方では雨となったところがあり、伊豆諸島では一部で暴風、東海地方では一部で強風となった。11日は、台風第14号が接近した影響で伊豆諸島では雨となり、一部で大雨や強風となった。また、台風第14号から流れ込む暖かく湿った空気の影響で、関東地方や東北地方では雨となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響により全国的に雨、一部で大雨(12~15日)

12日は、日本海の低気圧やシベリアの低気圧からのびる前線の影響で北陸地方や北日本で雨となり、北海道地方では一部で大雨となった。13日から14日は、前線を伴った低気圧が北海道付近を通過した影響により北日本で雨となり、西日本から東日本にかけての日本海側では雨となったところがあった。また、西日本は高気圧に覆われておおむね晴れた。15日は、気圧の谷の影響で西日本から東北地方にかけての日本海側や関東地方では雨となったところがあったほか、寒気の影響で北海道地方では雨となったところがあった。沖縄・奄美や西日本は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

前線の影響により全国的に雨(16~19日)

16日は、気圧の谷の影響により九州で雨となり、奄美地方や西日本、北海道地方では雨となったところがあった。17日は、日本の南に停滞した前線や気圧の谷の影響で全国的に雨となり、東北地方では雷となったところがあった。18日から19日は、日本の南に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨となったほか、オホーツク海の前線を伴った低気圧が東へ進んだ影響により北日本では雨となったところがあった。

高気圧に覆われて全国的に晴れ、その後前線を伴った低気圧の影響により全国的に雨、一部で大雨(20~23日)

20日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、湿った空気の影響で沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となったところがあった。21日から23日は、前線を伴った低気圧が発達しながら西日本から北日本に進んだ。また、日本の南から日本の東にかけて前線が停滞し、前線上の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で全国的に雨となり、沖縄・奄美や西日本では一部で大雨、沖縄・奄美や北海道地方では一部で強風となった。

寒気や気圧の谷の影響により北陸地方や北日本で雨、その後全国的に晴れ(24~27日)

24日から26日は、寒気や気圧の谷の影響で北陸地方や北日本の日本海側を中心に雨となり、北海道地方では一部で強風、関東地方では雷となったところがあった。沖縄・奄美や西日本ではおおむね晴れた。27日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、寒気の影響で北日本では雨となったところがあった。

気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や西日本で雨、九州南部では一部で大雨(28~31日)

28日から30日は、日本海を東に進み北海道付近を通過した前線を伴った低気圧や寒気の影響で、西日本の日本海側や北陸地方、北日本で雨となり、北日本では雷となったところがあった。沖縄・奄美から東日本にかけてはおおむね晴れた。31日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。

11月

前線を伴った低気圧の影響により全国的に雨(1~5日)

1日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、オホーツク海の前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道では一部で強風となった。2日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で、北海道では雨となったところがあった。3日は、前線の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨となったところがあったほか、本州南岸に発生した低気圧の影響で、関東地方で雨となり、雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、沖縄地方や西日本の日本海側で雨となった。4日は、冬型の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

前線の影響で全国的に雨(6~8日)

6日から7日は、東シナ海から本州南岸にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となった。また、北海道付近の前線の影響で北日本では雨や雷となったところがあった。8日は、北海道付近の低気圧や寒気の影響により、近畿地方の日本海側、北陸地方、北日本で雨となり、北海道地方では一部で強風、東北地方では雷となったところがあった。また、日本の南の前線の影響により、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、西日本や東日本の太平洋側で雨となったところがあった。

冬型の気圧配置の影響により中国地方から東北地方にかけての日本海側を中心に雨、北海道地方で雨や雪、一部で暴風(9~12日)

9日から10日は、冬型の影響により、中国地方から東北地方にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道地方では雨や雪となった。また、北海道地方では一部で暴風となり、北日本では雷となったところがあった。11日は、寒気の影響で中国地方から東北地方にかけての日本海側で雨となり、北海道地方では雨や雪となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。12日は、高気圧に覆われて全国的に晴れたが、湿った空気の影響で沖縄地方では雨となった。

前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美で雨、小笠原諸島や西日本の一部で雨、前線や低気圧の影響により

北日本で雨(13~18日)

13日は、日本の南の前線や気圧の谷の影響により沖縄地方や四国地方で雨となった。また、前線を伴った低気圧が北海道付近を通過した影響で北陸地方から北海道地方にかけて雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。14日から15日は、日本の南の前線や気圧の谷の影響により奄美地方で雨となり、気圧の谷の影響により北陸地方や北日本で雨となったところがあった。そのほかの地域では高気圧に覆われておおむね晴れた。16日は、気圧の谷や湿った空気の影響により南西諸島や九州で雨となったところがあり、気圧の谷の影響により北陸地方や北日本の日本海側で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。17日は、湿った空気の影響により南西諸島や九州、小笠原諸島で雨となったところがあり、一部で大雨となった。また、気圧の谷の影響により北海道地方で雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われておおむね晴れた。18日は、湿った空気や北海道付近の前線の影響により奄美地方や北海道地方では雨となり、九州南部や東海地方で雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響により全国的に雨、一部で大雨(19~23日)

19日から20日は、中国東北区の低気圧が千島の東へ進み、低気圧からのびる寒冷前線が日本付近を通過したこのため全国的に雨となり、北海道地方では一部で強風、西日本や東日本では雷となったところがあった。21日は北日本を通過した低気圧や寒気の影響により中国地方から東北地方にかけての日本海側や北海道地方で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。22日から23日は、サハリンの前線を伴った低気圧や日本海の前線を伴った低気圧が東へ進んだ影響で全国的に雨となり、北海道地方では雨や雪となったが、東日本太平洋側ではおおむね晴れた。

寒気や気圧の谷の影響により北陸地方や北日本で雨、太平洋側ではおおむね晴れ(24~30日)

24日は、本州南岸に発生した低気圧の影響により関東甲信地方で雨となったところがあった。また、寒気と気圧の谷の影響で東北地方の日本海側を中心に雨となり、北海道地方では雨や雪となり、一部で強風となった。そのほかの地域ではおおむね晴れた。25日は、本州南岸の低気圧が前線を伴って日本の東に進んだ影響で、関東地方や伊豆諸島では雨となり、気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。26日は、冬型の影響で近畿地方から東北地方にかけての日本海側で雨となり、北海道地方の日本海側では雨や雪となった。そのほかの地域ではおおむね晴れた。27日から28日は、対馬海峡の低気圧が日本の東に進んで冬型となった影響で、山陰から北陸地方にかけてを中心として雨となり、北日本では雨や雪となったが、そのほかの地域ではおおむね晴れた。29日から30日は、寒気や気圧の谷の影響により中国地方から東北地方にかけての日本海側で雨となり、北海道地方では雨や雪となったが、そのほかの地域ではおおむね晴れた。

12月

冬型の気圧配置により、中国地方から北日本にかけての日本海側では雨や雪、北海道では大雪(1~3日)

1日は冬型の影響により、中国地方から東北地方にかけての日本海側を中心に雨、北海道では雨や雪となり一部で大雪となった。そのほかの地域ではおおむね晴れとなった。2日は、冬型や山陰沖に発生した低気圧の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側で雨となり、北海道では雨や雪となった。また、気圧の谷の影響により関東地方の太平洋側で雨となった。3日は、冬型や日本海を東へ進む低気圧の影響で、中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪となった。また、日本の南にのびる前線と、湿った空気の影響により沖縄地方では雨となった。

冬型が一時的に緩み西日本では晴れ、その後低気圧や、気圧の谷の影響で北陸地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪、沖縄・奄美では雨(4~7日)

4日は、冬型は弱まりつつあったが、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となった。また、日本の南にのびる前線と、湿った空気の影響で、引き続き沖縄地方では雨となった。そのほかの地域ではおおむね晴れとなった。5日は、日本海を東へ進む低気圧や、伊豆諸島付近に発生した低気圧の影響により、北陸地方、関東地方、東北地方では雨となった。日本の南にのびる前線と、湿った空気の影響で、沖縄・奄美でも雨となった。一方、大陸に中心を持つ高気圧の影響で西日本では晴れとなった。6日から7日は、冬型や低気圧がオホーツク海を通過する影響で、北陸地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となったほか、東北地方では雷となったところがあった。

再び冬型となったが次第に移動性高気圧に覆われ冬型が弱まった。日本の南にのびる前線の影響で南西諸

島では一部大雨(8~9日)

8日は、冬型により、北陸地方から東北地方では雨となり、北海道では雪となったところがあった。南西諸島では日本の南にのびる前線の影響により、雨となり、沖縄地方では大雨となったところがあった。それ以外の太平洋側の地域はおおむね晴れとなった。9日は、冬型が弱まりつつあったが、中国地方から北海道の日本海側では雨や雪となった。日本の南にのびる前線の影響により、南西諸島では雨となり、沖縄地方では強風となったところがあったほか、西日本や東日本の太平洋側では曇りとなる地域があった。

低気圧や前線の影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雨や雪、関東地方や沖縄地方でも雨(10~11日)

10日は、伊豆諸島付近に発生する低気圧や、北日本を通過する気圧の谷の影響で、関東地方の太平洋側や、北陸地方から北海道にかけての日本海側では雨となった。沖縄地方でも前線の影響により雨となった。11日は、気圧の谷の影響で、北陸地方から北日本の日本海側では雨や雪となり、全国的にも曇りとなったところが多かった。沖縄地方でも、前線の影響で雨となった。

冬型が強まり、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪、北陸地方では雷や大雪(12~16日)

12日から13日は、北日本を低気圧が通過し、伊豆諸島付近に発生した低気圧が日本の東へ進み、冬型となった。これらの影響により、東日本の太平洋側では雨となったところがあったほか、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となった。また、北陸地方では雷となった。一方、日本の南の前線は次第に沖縄地方から遠ざかり、沖縄地方では晴れとなったところがあった。14日は、前線が本州付近を通過し、冬型が強まり、南西諸島や、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となった。北陸地方では雷となり、北海道では強風となったところがあった。そのほかの地域でも曇りとなったところが多かった。15日から16日は、強い冬型が持続し、中国地方から北海道にかけての日本海側で雪となり、中国地方で雷、北陸地方では大雪や雷、北海道では強風となったところがあった。一方、西日本や東日本の太平洋側沿岸では晴れとなったところが多かった。

冬型が緩んだが、低気圧が日本の東へ抜け一時的に再び冬型、中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪、寒気の影響で沖縄・奄美でも雨(17~21日)

17日は、冬型が緩み始め、中国地方から北海道の日本海側では雪となった。北陸地方では雷となったところがあった。一方、西日本から東日本の太平洋側では晴れとなったところが多かった。18日は、日本海に発生した低気圧が東へ進んだ影響で、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、沖縄地方では雨となった。19日は、低気圧が日本の東に抜け冬型が強まった影響により、中国地方から北海道の日本海側で雪となった。また、気圧の谷や寒気の影響により沖縄・奄美でも雨となった。20日から21日は、千島の東にある低気圧が次第に北東へ離れ大陸の高気圧が東へと張り出し、冬型が緩み始めた。中国地方から北海道にかけての日本海側では一部雪や雨となった。一方、西日本や東日本の太平洋側では晴れとなったところがあった。また、沖縄・奄美では引き続き気圧の谷の影響により、曇りや雨となった。

移動性高気圧に覆われたが、その後低気圧がオホーツク海に抜け前線が北日本を通過、寒気の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪、前線の影響で全国的に曇りや雨(22~24日)

22日から23日は、次第に移動性高気圧に覆われ西日本から東日本の太平洋側では晴れとなったところがあった。一方、寒気の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、沖縄・奄美でも、気圧の谷の影響により雨となった。24日は、沿海州の低気圧がオホーツク海へ抜け、低気圧からのびる前線が北日本を通過したほか、日本の南を東へ進む低気圧や前線の影響もあり、全国的に雨や曇りとなった。東北地方と北陸地方で雷となったところがあった。

一時的に冬型となり、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪、北陸地方では雷や大雨、その後移動性高気圧に覆われ東北地方にかけての太平洋側では晴れとなったところが多かった(25~28日)

25日から26日は、前線を伴った低気圧が日本の東へ進み、冬型となった。その影響で、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となり、北陸地方では雷や大雨となったほか、北海道では強風となったところがあった。27日は、移動性高気圧に覆われて東日本から東北地方にかけての太平洋側では晴れとなったところが多かったが、東シナ海を東へ進む低気圧の影響により、沖縄・奄美や西日本では曇りや雨となった。28日は、日本海を東へ進む低気圧の影響で北陸地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となった。日本の南を東

へ進む低気圧の影響で、西日本では広く雨となったが、次第に晴れた。

日本海に発生した低気圧が発達しながら日本の東へ抜け冬型、中国地方から北海道にかけての日本海側で雪、九州南部と中国地方では暴風(29～31日)

29日は、日本海に発生した低気圧の影響で、北陸地方から北海道にかけての日本海側で雪となった。九州付近で発生した低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美や西日本では雨となったところが多かった。30日は、本州を通過した低気圧の影響で全国的に雨や雪となったほか、中国地方から北海道にかけての日本海側では雪となったところがあった。沖縄・奄美から北陸にかけて、強風となったところがあり、九州南部と中国地方では暴風となったところがあった。31日は、強い冬型となり、中国地方から北海道にかけての日本海側では雪となった。北陸地方では雷となり、九州南部では強風となったところがあった。一方、西日本から北日本の太平洋側では晴れとなったところがあった。